廓清

本誌の本領

醜業公許制度の廢止を期すると共に男女貞潔の德操を進め家庭を純潔にし社會風紀の廓清を圖ること

宗教道德慈善事業生活問題婦人問題其他社會各般の活問題を公平に研究且つ報導すること

日本廓清會本部 東京

群馬縣廢娼二十年紀念大會

吾人が大聲叱呼公娼制度の廢止すべき所以を力說しつゝあるに對し、今猶世人の耳を傾くる者稀なるに、群馬縣に於ては疾く既に明治二十五年の昔に於て、縣會は之が廢止を決議し遂にこれを事實に敢行して本月を以て正に滿二十年紀念の大會を開かんとしてゐる、而して此の光榮ある二十年の歷史は見事に公娼制度の迷妄を事實の上から打破してしまつた。實に群馬縣は吾人の主張を裏書したるものであつて、吾人は滿腔の熱誠を以て感謝と敬意を當事者に拂ひたいと思ふ。同地支部員諸君は奮つて來會し、吾人と共に此盛典を祝せられん事を望む。

●紀念大演說會

●時日　一月廿四日(土曜)午後一時

●場所　群馬縣前橋市、前橋教會堂

辯士　廓清會群馬支部長　德江亥之助氏

　　　廓清會副會長　安部磯雄氏

●關係者有志者懇親會

▲時日　同夜六時　▲場所　同會堂

會費の納入と振替貯金口座の新設

從來會費の納入は、爲替、切手、郵便集金等の方法の外、益富政助氏所有の振替口座を利用し居たるが、斯くては双互の不便不尠に付、今般左の通り本會名儀にて振替貯金に加入したれば、以後はすべて本口座により拂込相成り度し

振替東京二一七〇七二一番

東京市神田區美土代町三ノ三

廓清會本部

電話本局四九四〇番

大正三年一月十四日納本　一部定價金六錢
大正三年一月十五日發行　(毎月一回十五日發行)

編輯兼發行人　伊藤秀吉
神田區三河町一丁目十四番地

印刷人　小林照雄
神田區三河町一丁目十四番地

印刷所　丸利印刷所
神奈川縣川崎町砂子百三番地

發行所　廓清發行所

第四巻第一號（一月）

目次

□廓清時言……………………會說
□當局者の反省を促す……………大隈重信
□宴會改良論………………………加藤弘之
□大正三年を迎へて
△宗敎家と提携を望む……………島田三郎
△一夫一婦の貫徹を期す…………矢島楫子
△敎育家と時事問題………………安部磯雄
△社會的背景を究めよ……………内ケ崎作三郎
△東北凶作地より…………………山田彌十郎
△三週年記念大會…………………益富政助
△靑春の危機に就て………………宮田脩
□藝妓の跋扈と家庭の婦人………鳩山春子
□自由廢業と凶作地の子女救護…山室軍平
□政治家の品行
△奈翁と結婚………………………矢島楫子
△旗色を鮮明にせよ………………西川文子
△離婚と光明………………………井深花子
△外交關係に及ぶ…………………小崎千代子
□京都の婦人………………………はつ子
□出獄人保護所現況…………………
□雜誌の雜誌
△宗敎の將來…………………………
△家人に望む三十條…………………
△今年から始めたい事止めたい事……
□英文欄……………………………大隈伯爵
□挿畫………………………………坂本繁二郎

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清時言

當局「廓清」を參考とす

過ぐる日、記者福井市に赴き伊東福井縣警察部長を訪ふ。氏は余を喜び迎へ、談廓清會の問題に及ぶや、「いや、あの雜誌なら、實はずつと隨分以前から拜見してゐるので、よく存じて居ます。殊に最近の號などは大に參考に資する所があるので、斯うして取つて居ります」とて棚より「廓清」を出して示し、種々本問題に就き意見を交換したるが、警察部長の意見は頗る吾人の主張に近く、いたく愉快を覺えぬ。尤も現行の制度は一警察部長の力のみにて自由に動かす事を得るものにあらず、我等も妄りに過當の要求をなすものにあらねども、個々氏の如き人を局に當る者の中に見出したるは喜びに堪へず、自分の力にて出來得る限りのことはやりたしと、語られたるは以て聊か吾人の意を強うするに足るにあらずや。

彼の英國に於ける廢娼運動の成功の如きも、要するに當局者と社會改良家が、互に意志の疏通を圖り携提協力して此の大なる人道問題の爲に盡したる結果に外ならず、我等は各縣に氏の如き當局者を得て。共に與に改善の方法を講じたきものなり。

警視廳當局者と懇談會を開かん

警視廳第三部長栗本庶務氏と近日の中に廓清會と懇談會を開きて意見を交換せんとて、氏の快諾を得たり。

元來當局者の目的と我等の目的とは何等の距離あるものにあらず、吾人が廢唱論を叫ぶものは詮する所社會の福祉、個人の幸福を冀ふが爲に外ならず、公娼論者が公娼の存置を叫ぶ所以も亦社會の利益を增進せしめんとするにあり、即ち吾人と當局と東西に背馳しつゝあるが如きも、實は同一線上に立つて共通の目的に向つて轡つものなるを知る、果して然らば兩者が相倚り相助けて、荊棘を開き嶮坂を攀ぢ、安固に健實に手を携へて同じ高根の花に向つて步武を進む可き也。而して公娼主義のオーソリチーたる栗本氏が、胸襟を開いて吾人と研究を共にするの態度に出でんとする雅懷は、吾人これを社會の爲に感謝を禁ずるを得ざる處にして、其貢獻する所鮮少ならざるべきを信ず。

群馬縣廢娼二十年紀念大會

日本三府四十三縣中、唯一の廢娼縣はいふ迄もなく群馬縣なるが、丁度今年にて廢娼後二十周年に相當するより、我等は其紀念大會を、前橋及び東京に於て開かんとしつゝあり、群馬縣がこの光榮ある二十年の歷史を開いて、如何に吾人を敎へんとするか、蓋し同縣の成績如何は即ち我國に於ける此の問題を解決する唯一の鎖鑰なり、全國の同志諸君は吾人と共に此の快擧を祝し、熱誠なる聲援を希望す。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

男子貞操問題

女子に貞操を强ゆとも、男子に貞操を說かずんば何等の意味をなすべきにあらず、男子貞操問題の今日迄閑却せられたるは、吾人の怪訝に堪へざる處なり。

國民新聞は「男子の貞操」と題して十有餘名の名士の意見を紹介したり、就中吾人を驚かしめたるものは女流教育家として令名高き某女史の意見なり。恐らく新聞記者の聞き違へならんかと思へど、論者は蓄妾も亦止むを得ず、矯風會の主張など結構にはあれど、日本にてはいまだ時機にあらずとて畏くも皇室の例を引き奉り、蓄妾の辯護を試みたり。これを一般闠塵の中に聞かば、何の驚く處もなけれど、名高き教育家某女史の說としては、殆んど信ずる能はず、奇怪なることもあるもの哉。

品川妓樓の燒失

吉原遊廓の火災を端とし、大阪難波新地、京都、洲崎、能代、武生等其他燒失するもの頻々として、そこに何等か天の啓示あるべしとさへ傳ふる新聞紙もありしが、本年に入りて早々、先づ第一着に品川遊廓中六軒を燒失したり。

抑々品川は遊廓制度の目的に全然背反したる貸座敷にして遊廓と稱ふれども廓になれるにあらず、往還に面し、良民の間に伍し、東海道より東京に入らんとすれば是非とも此の女郎屋の前を通らざれば他に道なし、斯かる處に貸座敷の門戶を張らしめ、白晝堂々賣淫の營業を公許しつゝあるといふは不都合千萬なる事なり、我等は遊廓制度の目的に叶はざる貸座敷、即ち町の中央や、往來に面せる貸座敷は、火事にてもありたらん時は、當然之れを止めしめる事になり居れるやに思ひて、警視廳につき取調べたるに、さる事なしとて假營業も無論許可する方針なりとの事なりき。

非立憲とは何ぞや

而して當局者は、既に與へたる營業權を剝奪するが如き、さる非立憲なる事は出來ずと答へたり。非立憲とは何ぞや、斯かる場合に此語の果して妥當なりや否や敢て論究する必要もあらねど、我等は當局者が自ら發したる此の尊重すべき語を長く記憶せられん事を望まざるを得ず、今後吾人は當局者が果して此問題につき立憲的なる行動を執るかを監視せん。

我等の解する處によれば、獨立したる娼妓稼業者に、與へられたる人權は蹂躙せられ、國家の法律規則を以て明に保障せられたる筈の自由廢業の權利すら、動もすれば否認せらるゝは今日の警視廳當局者の行動にあらざるか、而してこれをしも立憲的なりと思惟すといふか、敢て問ふ貸座敷に於ける娼妓、病院に於ける娼妓の生活は果して立憲的なりや否や、普通良民の間より隔離せんとする遊廓制度と品川の妓樓とは何等の抵觸する處なきや、而して又その營業權を犯す事なく同所に再築を許さゞる立憲的の方法なきかと。

噫貸座敷業者が吾人を敵視して、警察當局者を親類視するまた蓋し所以ある哉。（球川）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

當局者の反省を促す

廓清會顧問 伯爵 大隈重信

△教育醜業に飜弄さる

習慣の力といふものは實に偉大なものである、文華燦然たる東洋の一角に、公娼制度の如き舊時代の遺物が新時代の粧ひを凝らして大正の今日に殘存せんとしてゐるのは、不自然不調和の極みである。けれども習慣といふ恐しい力はこれが罪惡であるといふ事を悟らしめない、國民はいつ迄も昏々として眠つてゐる。廓清會は茲に警鐘を亂打して覺醒を促し、習慣の力を打破して健實なる國民道徳を興さうとするのであるから、實に容易ならぬ苦戰奮闘を要する譯である。

公娼の禍害の激甚なるは說く迄もないが、各府縣、殊に地方の都府に於て表はるゝ處の問題にして、我々の眼に觸れた丈にても遊廓の問題に關聯せるものが少からずある。たとへば名古屋の大疑獄の如き其一つである、これは其の最も大なる事件であるけれども我々の眼に觸れない匿れたる事實が何れ程あるか分らないのである。

先年北海道の旭川に遊廓移轉問題が起つた。移轉を求むる理由は、中學校寄宿舍の窓から遊廓が見へる、これは教育上甚だ宜敷ないといふ尤な理由であつて、運動委員が態々上京して色々移轉請願の運動をやつたが、成功しなかつた。而して其時の口實は、彼處には兵營がある、兵營の爲にどうも遊廓地を取除く事が出來ぬといふにあつた。けれどもそれは口實に過ぎない、軍隊には軍規がある、一方には警察がある、此警察と軍隊の力を以てして兵士の墮落を防がうと思ふなら決して難い事ではない、我々を以て見れば兵營云々の如きは全然口實に過ぎない。

而して此事實は何を我々に語つてゐるか、日本の遊廓は學校以上の權力を有つてゐるものであるといふことを、はしなくも暴露したものではないか、教育と醜業と角して見たら醜業は太刀山であつたといふ事ではないか、教育が醜業の爲に飜弄せらるゝといふことは由々敷天下の大事件である。

△遊廓の戰慄すべき禍害

名古屋の問題はどうであつたか、之れに關係連座する者に知事あり、市長あり、多額納税議員あり、代議士あり、富豪あり、しかも問題の火の手はそれ等に止まらず意外極まる處に及んで爆發してゐる。といふのは驚く可し警察迄が之に關係して警察協會に五萬圓寄附しやうといふのである、更に驚くべきは警保局長が之れを誘導したりとか、內諾したりとかいふ評判ある事である。以上の事實は裁判の經過に於て赤裸々に曝露せられてしまつた。

本件の如きは實に天下の大疑獄であつて、社會は爲に聳動

し、宗教家教育家はいふも更なり、政治家も亦大に驚き、天下の大事件として論議せらるべき筈であるのに、奇なる哉、世間は一向騷がない、これは卽ち社會の道德的神經が痴鈍になつてゐる證左である、國家の爲に深憂すべき現象ではないか。

斯くの如くにして最も恥づべく、最も恐るべき罪惡が常に遊廓に關聯して生じてゐる。卽ち遊廓は非倫破操の公許地であると共に罪惡發生の泉源である、こゝに政治の局にある者が着眼しないといふのは何といふ迂なことであらう。若し遊廓といふものがなかつたならば、醜行に特許を與へるが如きことがなかつたならば、名古屋の如き大事件は決して起らなかつたに相違ない。教育が醜業に汚辱せしめらるゝ樣なこともなかつたに相違ない。

△廓淸運動の二方面

これに對して廓淸會は如何に策應對戰すべきかといふと、二つの運動方法がある、一は國民自ら覺醒して風紀の廓淸の爲に努力することである。元來廓淸會の問題は、單に彼の中に惱み苦しんでゐる僅の可憐なる婦人達の身の上に關する問題ばかりではない、もつと切實な自分自身の問題である。家庭があれば夫婦があり、子供があるであらう、然るに其子が道樂者になる事を望む親は一人もない、己れ自らは道樂をしてすら我兒を放蕩者にさせたくないのが親の情である、して見れば此惡風俗を打破するといふ事は、やがて己れの子女を誤らざらしむる所以、己れの家庭を防禦する所以であつて、決して遠い他人の問題たるに止まらない、玆に國民自ら氣がついて自己を保護する問題として、此惡俗陋習を廓淸する事に努力せしむることである。

他は卽ち政治的の方面である、之を人民の力のみに望むのは少しく望洋の感がある、悠遠に過ぐるの虞れがある、玆に政治的の力を要する所以である。乍併政治の方より論ずれば實は此問題は四十年以前に解決せられてゐる筈である。卽ち彼の明治五年の太政官布告によつて、藝娼妓其他の年期奉公は一切禁ぜられ、金を懸けてゐたものは返辨を求むる權利もないといふ事になつた。然るに春秋四十年今日尙いまだ實行を見る能はざるは何ぞや。內務省は力を盡して出版物、新聞紙、其他演劇等にまで細心なる干渉を試み、風規の振肅に努力しつゝあり乍ら、風俗壞亂の根據地、罪惡の策源地たる遊廓に斧鉞を下さゞるは何であるか、我等の怪訝に堪へざる處である。我等の見る所を以てすれば、此惡風惡俗の取締を嚴重にするといふ事は、新聞や演劇の取締よりも遙に根本的であつて有效である、此の根柢に斧鉞を下してこそ始めて國民の風儀は肅淸せらるゝのである。國家が行政權を以て望むといふことは、社會の進運を扶翼助長する所以の方法であつて、廓淸會の問題の如きも、一面社會的に覺醒を促進すると同時に、政治的に幇助して行かなければならぬ。これ廓淸運動を有效ならしむる最大急務である。

△當局者は廓淸會を歡迎せよ

然るに今日迄の處にては、警察官は寧ろ醜業者の保護をする傾向がある、府縣會、市町村會に過が起る、殊に法に觸れるものが起る、而も恥づべき罪惡を犯して法に觸れるものが

起る、其犯罪事件に警保局長が關係してゐるといふが如き、少くとも評判を立てられるといふに至つては、實に寒心すべき大問題である。先の警保局長は、他にも或る罪惡があつて二罪三罪供發である、咄々天下の怪事ではないか。

風俗行政當局者の側から云へば、廓清會の如き社會の風俗を改むる運動の起つてゐる事は、喜ぶ可き現象として、其に一致協力、互に足らざるを補ひて、其目的の貫徹に努めなければならぬ筈である。冀くば局にある者、猛省一番因襲の羈絆を兩斷し、習慣に其明を蔽はるゝ事なく、國家の爲に提携努力を望む。

宴會改良論

樞密顧問官　文學博士　法學博士　男爵　加藤弘之

一　先づ實社會を改善せよ

廓清會の主義は誠に贊成する處である、公娼制度を布いても私娼はやはり居るのである、群馬縣の如きは古くから廢娼を斷行してゐるが、それだからとて別段密賣婦が甚しく跋扈するとか、斯ういふ弊害があるといふ話も聞かない。さうして見ると何が爲に公娼制度を敷いてゐるのであるか分らないのである。檢梅をするといふ、けれども公娼だけやつた處で現に其幾倍もゐる私娼に及ばさないのだから、效果はないといふ事になる。廓清の雜誌で主張される處は一々尤である。其他一夫一婦や有婦姦問題の如き皆尤もである。けれどもこれはどうも社會が進んでゐないから急速に行ける事ではない。併しそれならと云つて等閑にするのは何不可いからそれはやはり激しく論ずるのもよからう。が茲に私が考へたいのは、進んで政府に迫り法律の上から改善を求むるよりは、退いて社會の風紀を振粛廓清する事を先にしたらばどうかといふ事である。

社會が惡い時には如何に法律を完全にするとも、それは畢竟紙の上の法律たるに止まるであらう、法律はいくらも潜る事が出來る、活用の出來ない死文を作ることは法律の威信を害するものである。私は諸君の主張される一夫一婦論であるとか、有夫姦同樣有妻姦も罪せよといふ議論は如何にも尤ではあるが、さういふ事は歐米の先進國にも充分に行れてゐない。あれ位開けて、一夫一婦は昔から充分主張せられて、反駁の餘地がない程になつて居り乍ら、實際に於ては行はれてゐないのである。之を以て見ると日本にも急に實行せられさうに思はれない、やはり漸を以てそこへ行くやうに、社會實生活の改善を促すやうにしたらばよからうと思ふ。

二　藝妓を擯斥せよ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私は今漫然實生活の改善といふた。實生活の改善とは如何なるものをいふか、もつと具體的に言へば「藝妓問題」の如きは實に其の好適例である。廓清會の議論は私は恐く賛成で、よく時弊を衝いた公正なる意見であるが、就中此問題の如きは最も余の意見と適合したるものである。藝妓を廢せよといふ事は余は殆んど明治十何年頃からいふてゐる事である、けれども一向世間に賛成して呉れるものがなかつた。そして害毒は益々劇甚になるに拘らず、社會は依然として眠つて居つた。それを始めて廓清會が捉へて社會問題として世人の注意を喚起した事は、我輩の衷心から滿足する處である。

藝妓の如きは、法律も何もある事ではない、有志者が覺醒して、無くする樣に骨を折りさへすればいゝのである。勿論藝妓を廢せよと云つても、眞實に藝のみを以て業とするならば惡い事ではない、乍併實際に於ては彼等は藝よりも賣淫を以て業としてゐるものである。今日に於ては假令表面は何と云はふとも藝妓は明白に私娼である、而して其賣笑婦が盛んな宴會に侍し、眞面目な席上に必要になつてゐる。それ丈ならば未だ恕すべしであるが、之より種々の惡弊が導火線となつて發してゐるのである。

日本の宴會の有樣は、近頃は誠に風俗が惡くなつてゐる、舊幕の末迄は多人數の人が料理屋で會すると云つても藝妓は其當時にもあるにはあつたが酒席の周旋をする丈であつた。それが舊幕の末から段々惡くなつて今日の醜態を見るに至つたのである。僅な待合に於ける問題位ではない、隨分立派な名目の宴會、多人數集る宴會にも藝妓を必要のものとして、惡風は日に煽られてゐる。待合にしても昔のそれはほんとうの待合で、舊幕時代は人と協議する祕密な場所がないから、相談する場所といふ風になつて居つた。それが今日は一の祕密的の宴席となつてしまつたのである。併しまだ／＼待合に於ける小さい宴會位なら少しは風俗が惡くても、一般に及ぼす害は少いが、今日は大きな料理屋で大宴會をしても藝妓が必要缺ぐ可からざる者となつて、賣笑婦が酒間を斡旋する處より、宴會は著しく不行儀な野卑醜猥なものとなり、紳士として堪へ難き侮辱を感ぜずには居られなくなつた。斯くして世道人心に及す惡影響は蓋し測り知る可からざるものがある。

三、日本料理と西洋料理の宴席

けれども斯ういふ事を云ふ人がある。大きな宴會にはどうしても藝妓がないと困る、料理屋の女中丈では手が廻らぬ。藝妓の藝は第二としても、酒席の斡旋をするだけのものとしてもなくてはならぬ、と。

これは古くからある反對論である。併し論者は一を知つて未だ其二を知らない、現狀に立脚した皮相の見解である。西洋料理はどうであるか、藝妓は要らぬではないか、男の給仕人で何の不足も感じないではないか、して見ると日本料理にのみ必要であるといふ理由がない、日本料理だとて男でもよい筈である。現に昔は一軒の家で多勢の客をする事がある、さういふ時には袴を穿いて男が給仕をし酌をしたのである、女などは用ひない、あつても其家の召使位のものであつたそれで少しも不足を感じないのみならず、從つて風儀が亂れるやうな事もなかつたのである。それが舊幕の末頃から亂れ始め、遂に西洋料理の宴會と日本料理の宴會とは其品位に於

て雲泥の差を生じた。雲泥といふ言葉は斯ういふ場合に如何にも相應しい。日本料理の宴會は杯盤狼藉、放歌亂舞、いふ可からざる弊害が玆に誘致せられるのであるが、此風愈々增長して、近來は西洋料理を排し、日本料理にて藝妓を招く不行儀なる宴會を好むといふ墮落の傾向が著しくなつて來た。西洋人なども日本に來て最初の程は吃驚して呆れるのであるが、いつか却つてこれを面白がるやうになるである。併し乍ら顧みて思へば紳士として斯かる饗應をなすといふ事は、實に恥しい事である、男女間の風俗の紊亂は確に斯ういふ處に發生してゐるのである。

男女間の關係に就て法律を設け、頽廢を防がうといふのは結構な事ではあるが、それは二の次として私は先づ斯ういふ活問題に就て改善の道を講じたいと思ふのである。卽ち藝妓の如きものを社會の有志が呼ばないで、行儀のいゝ宴會を起すといふ樣な風を開く事である。若しそれが日本料理ではどうしても具合が惡いといふならば、西洋料理の宴會にすればいゝのである。いつであつたか、帝國ホテルに金持連が集つて藝妓を呼んだといふので問題になつた事がある。今にさういふ樣にならぬとはいへない、今日の社會は斯ういふ事を不都合な事であると思はないのであるから決して油斷は出來ない。西洋料理の宴會で立派に宴會が出來る以上、日本料理にて出來ないといふ理由はない、日本料理も西洋料理のやうにして開けば上品な宴會が出來る筈である。

四　宴會改良の急務

心ある人達が宴會を改良して藝妓の如き者を擯斥して行くといふ風に斯ういふ處から社會廓淸の歩武を進めて行くのが穩かでもあり確實でもあらうと思ふ。理想や空論ではない、やらうと思へばすぐに實行の出來る事なのである。法律の力を以て强制的に抑壓するのではない、唯有志者がさういふ風俗を起せばいゝのである。今日の狀態にては、藝妓などが出て下品な宴會は困るといふ人でも、假へば廓淸會の會員であつても、日本料理であれば必ず藝妓が出るから自然さういふ席なら御免蒙ると云つて出席しない譯には行かない、厭々ながらも出なければならぬ。斯麼有樣にては風俗の改まり樣がない、宴會を改良して上品に行儀よく紳士淑女を耻しめない樣にするといふ事は、今日の急務ではあるまいか。

法律は社會と懸け隔てたものを作る譯には行かぬ。未成年者の喫煙禁止は既に法律となり、飲酒問題も亦議會で論ぜられてゐるが、斯ういふ樣なことは、なるべく法律よりは道德上から改むるやうせねばならぬと思ふ。眞心から改むるでなければ法律で壓へたとて無駄な事である。巡査の前だけで煙草をのまないといふのでは法律の威信を無くする迄である。女郎の廢止、一夫一婦といふ樣なことは大贊成であつて、これ迄も述べてゐるが、宴會を改良して藝妓などを呼ばぬといふやうな事も是非勸めたいと思ふ。私は別に西洋料理を望む譯ではないが、若し日本料理では困るといふなら、其麼惡風の除かれないものは捨てゝしまう迄である。

私は社會の風紀廓淸の第一歩として、藝妓排斥の端緒として、敢て宴會の改良を慫慂する。

大正三年を迎へて

宗敎家と提携を望む

會長 衆議院議員 島田三郎

……極根本の事を云へば、我々の主張する問題は、各人を宗敎敎育の根源に立たする事である。人の人たる所以を知り、道に對し神に對し義務を盡する處迄進めなければならぬ、自己の良心に對して是れはしてはならぬ、彼れはせねばならぬと考へ、人の知ると知らざるとに拘らず。己れ一人を愼む處に眞の道德は横つてゐる、我等は此の道德の根源に立歸らなければならぬ。

一體、宗敎道德と政治法律との關係は、內科治療と外科治療との如きものである、政治法律は外部より疾患を治療せんとする外科的療法であつて、廓淸會が制度改良を提げて敢て呼號するもの畢竟眼前に横はる病毒を見るにたへず應急手段として外科的治療の必要を認めたるが爲に外ならぬ。けれども此の社會病は同時に內科的治療を施す必要がある、內部から病患の根柢を滅せないならば、假令制度を改良するとも、そはたゞ今日迄の公娼の形を變するに止まるであらう。我々は個人々々を道德的に自覺せしめて、確乎たる信念の上から罪惡を犯さゝらしむるやう、導かねばならぬ。それにはどうしたらよいか、私は敎會に助けを求むるのが最も捷徑であり至當であると信ずるのである、これが大正三年を迎へて特に考へたいと思ふ一點である。

藝妓娼妓に關する問題は、我國の風俗問題の大半を占めてゐる問題である。されば苟も風敎問題にも意を注がねばならぬ立場にある宗敎家各位は、喜んで、此運動に力を致すに吝かであるまいと思ふ。我國に於ては確に藝娼妓の問題を源流として、あらゆる醜惡が社會に漲つて居る、殊に最近に到つては此惡風俗の赴く處滔々として止まる處を知らず、神聖なる婚姻の席上に藝妓を招き、遂に家庭にすら彼等の出沒する姿を見出すのである、而して藝妓とは抑々何であるか、たとひ表面は何といはふとも、一般に醜業婦たる事が明白に認識せられてゐるのである、それにも拘らず神聖なるべき諸種の儀禮の席場より、祭禮にも公式にも彼等が與かるを見て人も怪ます、彼等も憚からず傲然として濶歩し、遂に家庭にまで出入し、何等取締る處なしといふは、何たる風俗の頽廢であるか。

一昨年の事である。米國加州ベーカースフイールドといふ處はスタンダードオイルの製造地であつて、大變勞働者の多い、金廻りのいゝ處である、此處も例に洩れず日本勞働者は至つて風儀が惡い、日本の醜業婦も入込で居た、然るに同地方面には北澤鋭治といふ牧師があつて極力矯風廓淸に努めてゐた。勞働者側にとつては矢喧しく云はれるとどうもそれ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

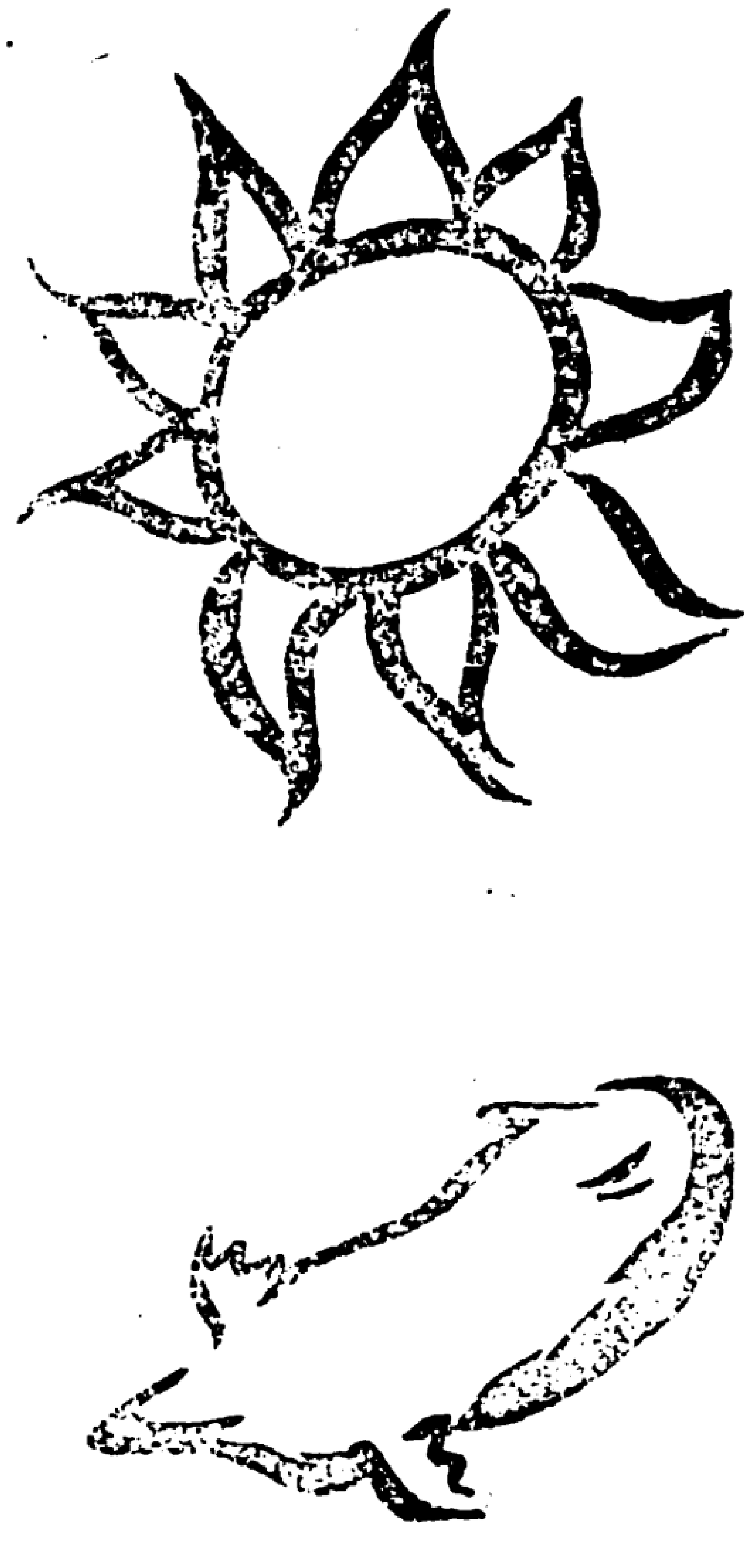
が窮屈であり、醜業を營む者等が牧師及び其下に矯風運動を爲す基督教徒を疾むこと甚しかつたが、終に天長節の儀式に關する問題を種子とし、北澤牧師を極めて非國民であるとか、危險思想を懷いてゐるとか色々の口實の下に遂に氏を放逐してしまつたといふ事があつた。本人は今現に信州長野市に歸りて同市のメソヂスト教會牧師となつて居らるゝが會つて見ると少しも危險な處ではない、仕事の出來る好個の紳士で、溫厚篤實な良牧師である、こんな立派な人がどうして逐出されたかといふと、醜業の徒や遊蕩連中やが自分達の惡い事を始終刺されるからである、正義の利刃が恐しくつて堪へられなかつたから、多數といふ力で逐出したのである。

それでは佛教家の方はどうかといふと、佛教の方では斯ういふ事には極めて平氣である、內地に於ても多く左樣で米國に於ても亦左樣である。お賽錢さへ上がれば女郎屋であらうと、女郎買する爲めであらうと一切無差別の大慈大悲の救靈を施すのである。東京で云つて見れば淺草の觀音樣は、待合、料理屋、藝妓、樓主、娼妓、乃至魔窟の連中から捧ぐる娼賣繁昌の祈願で持つてゐるといふ有樣、日本の宗教家としては一番勢力の多い佛教が、此の惡風俗に浸潤せられ無感覺であるといふ事が、日本の風俗を今日の如く頹廢せしめた少くとも一つの原因に數へしめてゐるといふ事は、誠に遺憾千萬な事である。

そこへ行くと英米の宗教は大に趣を異にしてゐる、なる程それは歐米にも惡い事はいくらもある、が少くとも宗教家だけは其惡風俗に對して常に峻嚴に反對の態度を取り、眞向から攻擊もし、一方から救濟の道も講じてゐる、それが即ち歐米の風俗をして比較的善良ならしめてゐる大なる原因であると思ふ。

我が廓清會は今後大に基督教會と力を協せ、互に助け助けられて國家社會の爲に努力したいものである、さうなれば其の教會の勢力範圍だけなりとも、風俗を矯むる事が出來るのである。

カクセイノヒ



坂本繁二郎氏畫

一夫一婦の貫徹を期す

副會長　婦人矯風會頭　矢島楫子

大正三年に於ける我等の覺悟といふ樣な問題につきましては、いつも私共は考へて居らねばならぬ筈でございますが、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

とりわけ本年は諒闇もすぎ大正の御代に移りまして、いよいよ實行の時代となりましたにつけ、一層深く考へねばならぬと存じます。

過ぐる年より引續ける排日熱につきましても、勞働問題が與の原因ではなく、私共が充分責任を感じて社會より取除かねばならぬものが存して居るのださうであります。即ち我國の同胞姉妹が到る處の外國に賤業を營み之を恥とも思ひませんと伺ます。斯る者を友とする事はこの國に於ける人さへも心あるものは身振ひを致す程でございますれば、況して進歩向上の精神に富んでをる先進國の人々が嫌ひますのも無理はございません、私共は強ひて排日說に反抗致すよりもまづ退いて此の國にあるすべての罪となり汚れとなるべきもの且つは野蠻に近き行爲を取り除き、先進國に劣らぬ迄、この國を進歩致す樣に計る事が必要ではございますまいか。

次に目せられますのは家庭の紊亂であります。夫は妻の人格を認めませず唯自分のみ金儲けを致すと云ふ風に考へ、我が思ふ儘に酒を呑み、煙草は勿論、ありとあらゆる罪惡を犯し、其結局は離婚の沙汰となり家の不幸となることも忘れてをるものがどれ程多くございませう。實に數へきれない程であると存じます、毎日三面に記載されまするものばかりでも容易なものではありません、日本が離婚の數の多いのも尤もであると嘆ぜざるを得ないのであります。斯樣な忌はしき記事を見てたしかに我が黨の諸姉は不德なる男子を怒り或る時は離婚されたる夫人に同情し、或る時は同胞姉妹にして何故かゝる淺ましき業を營みて顧みざるかを殘念に思召さるゝのでございませう。されば先進國の紳士がこの狀態を御覽になつた時、又た我が國の政治界に起たるゝ貴顯紳士の品行につきまして洩れなく内面を探知せられまするならば、どんなにいやに思はるゝか嫌はれますのは當然でございます。英國には不品行なものは政治界に出る事は社會が許さぬと迄に進歩してをります。又昨年も本誌に記しましたが英國では醜業を營む者は斷然捕縛して笞刑に處する事を實行してをられる先達て布哇のある姉妹からも御手紙に「醜業婦は續々本國へ送り歸され實に愉快云々」と御座いました、かくの如く正義を重んずる國と比較致しまして實に恥かしいと存じます。

其外公娼の惡制度は今以て廢止にはなりません、更に藝妓屋を新に設置せんと企つる者のございますに至りましては、何を以て日本は世界に對する面目がございませう。玆におきまして私共國民の一人一人は之がために重る責任のあるものと信じ、互に主義を實行し擴張して遂に一婦一夫の制度は布かれ公娼の制度は罪惡と認められまして、潔き美はしき家庭のこの國に充ち滿つる樣に求めたいのでございます。

教育家と時事問題

副會長 早稻田大學教授 安部磯雄

大學教育に從事して居る人々は遠慮なく時事問題を論じて少しも憚る所はないが、中等教育を擔任して居る教育家は時事問題に喙を容るゝことを恰も不道德行爲でもあるかの如く考へて居るらしい。私はこれを以て教育家の無智無定見とか臆病とかに原因するものと考ふることは出來ぬ。文部省が多

年中等敎育から政治思想を除外したる結果、曾に中學生が政治の何たるを知らないのみならず、中等敎育家までが政治に對して一種の恐怖を抱くに至つた。私は敢て恐怖といふことを躊躇しない。何となれば政治を論ずる中等敎育家に對して政府は必ず壓迫を加ふるものと考へられて居るからである。勿論中等敎育家が直接政治に關係することは餘り好ましきことではないに相違ない、併し單に政治を論じ、若くは政治問題に對して意見を陳ぶるに於て何の差支があらう。況や風紀問題に關して其所信を開陳するに於てをやである。私は今日の中等敎育家が餘りに萎縮して、己が職業以外の事に關して殆んど意見を開陳するの自由すら有せざるを見て、文部省の敎育方針の如何に狹隘窮屈なるかを感ぜざるを得ない。

先日我廓淸會は東京附近の中學及び高等女學校々長百五十餘名に宛てゝ書を送り、公娼廢止問題に關する意見を聽いたが、今日に至るまで未だ一通の返書にも接しないのである。近來新聞雜誌社などから濫發する種々なる質問に苦しめられて居る人も少なくないのであるから、私は多くの返書が來らうとは豫期しなかつた。然も一通の返書にも接しなからうとは全く豫期しなかつた。私は百五十名の校長が廓淸會の質問を愚問なりとして取合はなかつたとは考へない。尙ほ又彼等が公娼問題に對して何等の定見をも有して居らぬとは考へない。今日靑年男女を敎育しつゝある敎育家が靑年男女の風紀に最大關係を有する公娼問題に就き恰も申合はせたるが如くに口を噤んで居るのは果して何の爲であらうか。私は慥に彼等敎育家の多數が政府の公認せる公娼制度を批評することは卽ち政府を攻擊するのだといふことを考へて居るのではないかと思ふ。彼等は必ずしも政府を恐れて居るのではあるまい併し少しでも政府の御機嫌を傷ふことは自分の損だと考へて居るらしい。斯く言へばとて私は少しでも敎育家を惡評したり攻擊するのではない。私は心から今日の敎育家に對して同情を表する。時事問題に對して意見を陳ぶることすら遠慮せねばならぬ程に敎育家をして用心深くならしめたのは果して誰の罪であらうか。國家は風紀紊亂の根源たる公娼制度、藝妓制度を公許して、敎育家よりは其是非を批評するの權をさへ奪ひ取つて居る。而も政府は靑年男女の德育に努力せよと敎育家に命ずるのである。噫何たる矛盾であらうか。

風俗頽廢の社會的背景を究めよ

理事 早稻田大學敎授 内ケ崎作三郎

近頃廓淸會は藝妓問題を論究してゐるが、之れは頗る複雜な社會問題である、藝妓なるものは抑々如何なる階級から供給せらるゝか、彼等は今如何なる生活をなしつゝあるか、藝妓屋は果して人間らしい待遇を與へてゐるかどうか、彼等の末路はどういふ風になつて行くものであるか、大に研究して行く必要がある、それからまた待合制度の問題であるとか、藝妓屋、料理屋、旅館等の内幕、祕密關係、蓄妾と藝妓との關係等、考究しなければならぬものがいくらもある。

更に大切な事は、現在の男女關係は何故斯く紊れてゐるかそれを調査する必要がある、これは永い習慣と遺傳とが大分

惡影響を與へてゐるやうである。或は經濟問題の爲に結婚が困難になつて秘密結婚が殖えてゐる。或は新聞紙が此問題を餘りに手輕に取扱つてゐる。青年の官能を刺戟する樣な記事に富めるものが流行してゐる。といふ風に隨分複雜な社會的背景がある。

外面に表はれてゐる弊害を、此の惡しき背景の眞原因を究めて根本的に豫防するといふ事は、我廓淸會の目的を達する一の方法としても、又人生の爲に有用な方面を開拓するといふ側から云つても必要なことである。

出張中の東北凶作地より

理事　救世軍大校　山田彌十郎

コンゴ　一ソウノ　ドリヨクヲモツテ　ジヤクシヤノタメ
ニ　ツクサン

廓淸記者足下、御申越の原稿〆切までに到底間に合ひ兼候儘不取敢電報にて御通知申上候が御役に立ち申候哉。小生事此度本營の命により凶作地に於ける子女救護運動の使命を帶びて當地方に出張致し居候。過般來靑森縣下の各地を巡回凶作の實況を視察致し居候が去る一月十二日同縣三戸郡鮫村と申す所へ參り候。此地は海岸の一小港にて同地方に於る風紀の最も亂れたる所にて、數年前までは村の大通りに妓樓二十餘戸軒を並べ數十の娼妓盛んに風俗を亂し居りて此附近の名物(?)の一つに數へられ居りしが、去る明治四十二年中、大火の爲、殆んど全滅、當局者は之を機會として他に移轉を命じ之を機會として妓樓の廢業するもの頻々として相起り、現今にては、唯一戸の貸座敷と僅か貳名の娼妓の氣息奄々として餘喘を保ち居るに過ぎざる狀態、時勢の推移と我等の主張の着々到る所に勝利を得居るを見、愉快禁ずる能はず當縣下に於ける視察の一端を記して御參考に供し候早々敬具

（一月十五日靑森市浦町字橋本救世軍救護運動事務所にて）

如何に三週年紀念大會を開くべきか

理事　鐵道青年會理事　益富政助

廓淸會も創立以來三度新春を迎へ、今年の六月で滿三週年になる。これ迄は基礎を固むる時代であつたが、これから愈々活動期に入つた譯である、此の望み多き新春の曙光を迎へて、自分は先づ盛大なる三週年紀念大會をどういふ風に開いたものであらうと考へた。

そして更に今年はどういふ樣に活動すべきであらうかと考へて見た。固陋なる議員達の爲に一笑の下に投げ棄てられる事であらうとは思ふけれども、是非共帝國議會に向つて公娼廢止の請願を提出しなければならぬ。これが其第二である。つゞいて警視廳當局者と意見交換會を近日中に開かねばならぬと思つた、これは別項廓淸時言中にも書いておいたが、二月中に實行する事にしたいと思ふ。これが第三である。

第四は新聞記者を招待して、吾人の主張をよくのみ込んで貰ふ集會を開きたい。

第五には教育家の招待會を開いて見たいと思つた。これは別項安部副會長の執筆中にもある通り、東京及附近の教育家の意見を徴してある關係もあり、教育家と提携して根本的に廓清を圖る事を閑却してはならぬ。

第六には全國の牧師に向つて我々の主張を充分に告げて、助力を求めやうといふ事である、これは島田會長の所感中にもあるが、是非共實行しなければならぬ一事である。

最後に本邦在留の外人宣教師にも同樣援助を求むる事を實行したい、之が其の第七である。斯くして全國の基督教會と氣脈を通じ、此の大運動を進めて行きたいと思ふのである。

本年は群馬縣が廢娼を斷行して丁度二十週年である。本月下旬に其記念大會を前橋市に於て盛大に執行したいといふので、鎭江支部長から交渉があつた。本會も亦創立三週年の大會をしようといふのであるから、本年は隨分希望に充ちた年ではないか。大正三年の初頭に立ちて、會員諸君の幸福と健鬪を祈る。

エレン、ケイは如何にして 青春の危機を通過せしか

理事 成女高等女學校長 宮田修

「戀愛と結婚」の著者として有名なるエレン、ケイ女史は、現代の最も卓越した婦人の一人として博く世に知られて居ます。舊い思想の人は「どうも宜しくない」と女史の論に大に反對しますが、又進歩した新たらしい若い人々の間には之れが大に歡迎せらるゝので、從つて一家の内にも動もすれば衝突を來す事もあるのであります。それ位に女史の論は過激で、思ひ切つた意見を發表し、世界至るところの思想界を動搖さして居るのです。これは今更申さなくても已に人のよく知つて居る處でありますが、さて女史は其自らの少女時代――青春の危機を如何にして無事に通つて來たかと云ふ事は更に興味ある問題であらうと思ひます。

女史は素英國のものでありましたが、その後瑞典に移住した人で、其家系を見ると、中には國家のために身命を捧げた立派な武人もあり、又貴族の列に加つて勢力を得て居たものもありまして、兎に角立派な、相當の家柄と見る事が出來ます。そして其代々の祖先は、他と異つた共通の點を持つて居ます、と云ふのは何れも神秘的戀愛の物語を有つて居る事であります。例へば自分の愛する婦人を娶とするに就ての條件として幾多の小王國を合併せしむべきを以てしたり、又女の方でも相愛の男子と結婚する爲にはすべてのものを犧牲にしたなど云ふ物語が幾らもありまして、エレン、ケイは其祖先の血を受けて生れました。而して日本の家庭などでもよくするやうに、祖父や祖母はよく一家團欒の中で昔の祖先の物語をしました、エレン、ケイは其戀物語の感化を受けて人となりました。

一體歐米の婦人は宗教の感化が偉大な勢力をなし、其信仰よりして戀を神聖視し、よく其處女時代の純潔を保つて居るものでありますが、エレン、ケイも最初はこの感化に支配されて居ましたけれども十六七歲の頃になると、以前の反動として著しく冷淡になり、一方自分の本性の方が大なる勢力を

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

以て頭をあげかけた、卽ち、今まで宗教により押へつけられて居たものが、その抑壓を外れて自由に自分の本來の性が伸びやうとしたのです。

さらぬだに祖先の血を受け、その戀物語の感化を受けて居る彼女は、唯一の抑制者たる宗教の手をそれて、恐るべき危險の淵にのぞんだのであります。

この有樣を早くも見てとつた彼女の母ソフヰー、ケイ夫人は、この時彼女に三冊のドラマを與へました。

エレン、ケイは他の子供と異つて小さい時から獨り森の中を步るいて見たり、野をさまよつたりして、常に自然と親しみ、又時としては讀書に耽り、殊に冥想に耽ける事の好きな理智の少女でありましたから、母より受けたこの三冊のドラマを喜んで靜かに讀みました。三冊とも皆イブゼンの書いたもので、中でも最も彼女の心を引いたのは愛の悲劇でありました。

そしてエレン、ケイは自分の頭にあるところのものと其ドラマの中に現はれたる戀愛とを理想化して、そこに一つのものを描き、自分は少し離れて見るやうになりました。からして彼女はラブなるものを理想化して前におき、始終それを見ながら青春時代の危機を無事に通過してしまつたのでありまして、その見て來た思想がやがては「戀愛と結婚」となり、女性のためにも氣を吐いてるのです。

これ素よりエレン、ケイの傳記の一節に過ぎませんが、この事實を深く味つて見ると餘程面白いところがあると思はれます。――一體今の父兄や敎育家の或ものは子供に小說を讀ましてはいけない、脚本を讀ましてはならぬとやかましく云ふけれども、適當に之れを利用して行けばエレン、ケイの場合の如く、それに依つて又危機を無事に通過する事も出來るわけであり、こゝは吾々のよく注意すべき點ではありますまいか。

青春の危機を恐れ、徒らに之れを壓へやうとするのではなく、之れを適當に導く必要があるのでありまして、廓淸會などに於ても、一方には「如何にして青春の危機を通過すべきか」との問題を研究する必要があるだらうと思ひます。

大阪特別大運動寄附者芳名

（大阪號締切後に受付けたる分）

一金三圓三十錢也　三一敎會（委員　平野しん子）

小別

金五十錢　、光安　夫人
金五十錢　中野　夫人
金五十錢　富永　夫人
金五十錢　平野しん子
金三十錢　堤　夫人
金三十錢　佐藤てい子
金二十錢　吉井かつ子
金二十錢　深田しげ子
金十錢　內田てる子
金十錢　村瀨　夫人

一金壹圓也　安治川敎會婦人會
一金五拾錢也　中屋定代子（川口敎會）
一金參拾錢也　森田せい子（北敎會）

計金五圓拾錢也

累計金四百四拾壹圓八拾五錢也

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

藝妓の跋扈と家庭の婦人（一）

鳩山春子

（一）最後に來るものは亡國であります

藝妓といふものが、社會に害惡を流すものである事は勿論で、家庭の平和をどれ程攪亂してゐるか分りませぬ。不良少年なども畢竟腐敗した家庭の産物であります。「廓清」を拜見いたしましたが、あれにも御座ゐます通り、本願寺の法主さんすら藝妓狂ひをして居られますとのこと、そんな心得違ひの人達を誡めて人の人たる道を歩ましむる任にある、宗教家自らさういふ有樣で、政治家は待合に國事を談じ、實業家は藝妓に酌をさせながら商業上の取引をするといふのが、今日の現狀であるといふのは何といふ淺ましい事でせう。

節操を賣物にするといふ事は、人間のなす事ではありませぬ、人間のする事でない事を行ふのですから、さういふ者を人間以下の動物として社會は之を擯斥しなければなりませぬ。今日の社會は果してさうなつて居りませうか、否々今の世の中は斯ういふ者共を卑しむどころではなく、如何なる家庭にも出入し、如何なる席にも侍せしめる、寧ろ普通の婦人よりも重寶がられ、優遇せられてはしないでしやうか。

そこで私が申し度いのは、斯樣に卑しむ可き動物を優遇する國家は、古來滅びてゐるといふ事であります。遠く希臘の昔より近く朝鮮の跡を尋ねましても、等しくさういふ事が語られてゐるのであります。朝鮮人といふものは極めて遊惰な國民でありまして、男は長い煙管などを咬へてだら〳〵してゐる、女の方が却つて割合に働きます位、そしてやはり女は甚しく卑しめられて居り、官妓などの方が遙に威張つて居るので御座ゐます。希臘に致しましても當時の眞面目な婦人は敎育がなく、藝妓のやうな者の方が餘程勢力がありました。ソクラテスと問答など致して居る者もありまして、當時の藝妓は比較的學者であつたやうですが、さうばかりも限りませぬ、たゞ商賣柄、對手々々によつて其人の好むやうなことを言つたり爲たりしなくてはなりませぬ、何しろ對手を面白く遊ばせる、喜ばせるといふ事が其職業でありますから、哲學者に出會へば其人に適當な問題を捉へ、其趣味に合する言葉が出なければなりませぬ。學問はしなくとも偉い人々と交際して居れば、自然さういふ人達の話から自分の智識が磨かるゝ、門前の小僧習はぬ經を讀むたとへで、彼等の交際上の智識が益々發達し不品行の卑しむべき身なるに拘らず愈々跋扈して、男子の德操を亂し、遂に一國衰亡の原因をなしたのでありました。

日本の藝妓の如きも其怜悧にして機敏なる、客の氣を迎へる事の巧妙なる、到底世なれぬ奧樣方の企て及ばないところでありまして、斯くして益々男子の要求に深く膠着結合し、害毒が愈々擴大せられて參るのであります。而して最後に來るものは何で有ませうか、亡國！、それではありますまいか。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

《二》藝妓と口を利くのを名譽のやうに

藝妓の跋扈はとりも直さず節操の蔑如を意味するものであります。人心の墮落の象徴であります、して見ますと、國家が衰亡に赴くといふことは容易に首肯し得らるゝ當然の徑路ではありませんか、今日の藝妓は普通の人の出入の出來ない處に出入し、大臣宰相と交つて居るのであります。私は毎月幾回も結婚の席に招かれるのですが、西洋式にばかり參りませぬから、時には紅葉館其他の料理屋あたりである事もござゐまして屢々藝妓若くば類似の者と同席致します。世間の奥樣方はさういふ席で藝妓と口を利くのを名譽のやうに思つてゐられます方がありまして、藝妓と口も利けないやうでは巾が利かぬといつた風のある位、實に奇怪な有樣でござゐます。

同じ動物の中でも娼妓の方は、兎も角も世間から卑しめられて、紳士の歯す可からざるものとなつてゐますのに、何故に同じ節操の賣買を職業とする藝妓が優遇せられるのでありませう。時代思想といふものは妙なもので、絶へず種々に變つて參ります、今日善と思つてゐた事が必ずしも明日も善と限らないのであります。一體善と惡との間に判然と境界線を引くといふ事は困難なことで、動物と植物が梅の木と犬と云へば判然してゐるけれども、くらげとか珊瑚とかいふやうな單細胞動物になると植物だか動物だか分らなくなります。善惡も其通り故なく人を殺すとか放火するとかいふ事は、明に惡であることが分りますが、貞操の觀念の如きは今日こそはつきりして參りましたけれども、昔は餘り惡い事とは思はれませんでした。ですから昔は吉原が交際の中心となつて居つた位で、私の家も鳩山の家も、參勤交替の頃は留守居役でしたが、留守居役といふのは恰度今の公使とか大使とか云つたやうなものですから、交際上度々斯ういふ處に行かねばならなかつたさうであります。そしてさういふ處で澤山金を使ふのが何よりの見得で、御接待の方法でありましたが、當時の花魁なるものも今日と違つて氣骨もあり、譯も分つてゐて、たゞの動物よりは少しは上でありました。仙臺侯をふつたといふ高尾の樣な妓も出ました位ですから、自然斯ういふものを手に入れる事を誇りとするといふ風があつたのでせう。けれども、これは節操といふものに對する道義心の極めて痴鈍であつた時の事で、大正の今日猶藝妓の跋扈するなどいふ事は誠に殘念なことであります。幸に廓清會のやうな會が出來て、さういふ方面にお働き下さるといふのは誠に結構なことゝ存じます。

《三》單純な奥樣方とは甚しい懸隔がある

どうして一體藝妓のやうな動物が社會に跋扈するのでせう。勿論需用があるから供給があるのです、這麼ものを要求する男子があるといふことは誠に困つたことでありますが、今日の婦人にも亦缺陷があらうと思ひます。日本の婦人達はほんとうに男子を解してゐないのです、結婚して始めて御主人たる男子を知る位のもので、充分に男子の性情を解してゐませぬ。そこへ行くと藝妓は子供の時から如何にすれば男子に好まるゝか、といふ事ばかりを教へられ研究して來てゐますし、多くの變つた男子に接します處から、男子操縱術とい

ふものをちやんと會得してゐるのです。男子の弱點、男子の長所、皆それ〴〵人々によつて顔色一つに何もかも呑み込んで、此人は斯う、彼の人はあゝと、對手次第に其人の喜びさうな事を言ふのですから男子たるものは家庭に於て滿足し得なかつた快樂を茲に味ふやうになるのであります。藝妓の巧妙な待遇は實に感歎の外はありません、女の客に對しましても、如何にも其人の氣に入りさうな事を申します、追從らしくなく、巧みにお世辭を申すのです、又どんなに男が惡口したり何か致しましたとて決して憤るといふ事はありませぬ、それならと云つて唯はい〳〵申してゐるのではない、其の場々々に巧みに受答へをやつて、怒らせずに笑はせる、面白がらせるやうな惡口の返報をするところなど、實にお手に入つたもので、單純な奧樣方とは甚しい懸隔があります。殿方が迷はれるのも强ち笑つてばかりも居られませぬ、商賣とは申し乍ら、私共の學ぶ可き點はいくらもあるのです。假へば此人は酒を飲み過ぎるから、止めさせた方がいゝと感じましても、私共がそれを怒らせないやう、心持を惡くしないやうに止めさせやうとするのは中々六ケ敷いことでござゐますが、經驗のある藝妓に賴めば、雜作もなく何とか極めて手際よく止めさせてしまうさうで御座います。

《四》私の貞操觀の根據

此頃肉の解放などと唱ふるものがありますが、實に飛んでもない事です。一體日本人は性急な國民で、維新のやうな大業も僅の間に出來まして、西洋の文明も瞬く間に咀嚼しやうとしますが、其結果是非の判斷を失つて、西洋のものとさへ云へば一から十迄受入れて妄りに心醉しやうとする傾向があります。今日は西洋の思想も大分變調を來してゐまして、或る一部に墮落の傾きがあるやうに思はれます、此頃の西洋の女は煙草も喫みますし、酒も飲みます、英國でも先のヴイクトリア女皇の時には、ちつともそんな事はなかつたんですが、段々斯ういふものを喜んで來ると共に、趣味は頽落し、信仰の力は衰へ、十九世紀の科學の發達から、浪漫主義の文藝は自然主義となり、遂に肉の解放などを叫ぶ者あるに至つたのでござゐますが、肉の解放に反對するには一の重要なる論據があります。それは肉の解放をする結果、子供の父親といふものが判然しない、子供は自己の後繼者、第二の我でありますのに、其子は自己の前身の半分たる母のみあつて父がないといふ事になつては、どうして健全なる人類の進化がござゐませう、種族の發展がござゐませう、個人の向上がござゐませう。

人世最大の義務、至上の事業はよりよき●●●●後繼者を作る事であります。忠孝も勿論大切な事であります、忠孝は實に百行の基人倫の大本でありますけれども之を永遠に繼續するにはよりよき後繼者を殘すといふ事に歸着します。左ればよりよき後繼者を殘すと云ふ事はもつと人世に切實な問題でござゐます。何故かならよりよき後繼者を殘す事をしないならば人類の進化がない、滅亡に向つて進まねばなりませぬ。よりよき後繼者といふ事があつて始めて忠孝の道が起るのであります。今日迄は唯社會的、一時代的に大なる貢献をする事が偉大な事でありましたけれども、人種改造學などが起りましてから、始めて優良なる子孫を殘す事が、最

も大なる貢献たる事が分つて參りました。

私の貞操觀、藝妓觀も、根據を茲に置くものでござゐまして、一夫一婦の制を破り、神聖なるべき貞操を弄んで種族の發展人類の進化を阻害するものは、藝妓といはず娼妓といはず排斥すべきものとするのでござゐます。然るに世の中は矛盾に滿ちて居りまして、藝妓といふ反社會的一表現に對して、寧ろ愛着羨慕の眼を以て迎へてゐるといふ事は、古今東西の史乘に徵するも國家を危殆に導くものでありますから何とか解決の方法を講せねばならぬといふ事になります。

需要がある處に供給があるといふ事が經濟上の原則であるならば、私共は先づ需要の根底を爬羅抉剔して發生の原因と存在の理由を明にし、改善の道を立するといふ順序を取らねばならぬ。何が故に斯かる動物が歡迎さるゝか、私は曩に概括的に家庭の缺陷と申しました。一言にして云へばさうであるが、今深く解剖の刀を下して見れば、

第一、情慾を抑制するだけの道德心なきこと
第二、婦人に對する思想上の根本的錯誤
第三、夫婦間の愛情の缺乏
第四、慰藉者としての妻の缺陷
第五、妻の疾妬より起る反感
第六、嫁と姑の不和
第七、男女交際の行はれざること

等であつて、これ等は皆單獨に引離して考ふる事の出來ない程相互に錯綜纏綿して密接な關接を有するものでありますが、たゞ私は便宜上以上の項目に分けて愚見を述べ、最後に根本的解決法を考へて見たいと思ひます。(未完)

ガイチウ

坂本繁二郎氏畫

廣岡淺子女史より

昨十一日夜御書面拜見仕り候處、十二日締切の原稿「政治家の品行問題」を相認めよとの義に候へども、何にしても十二日則締切當日の事にて如何とも致し方無之誠に殘念に存じ候へども右樣の次第につき此段御承知下され度候。尙重ねて何か愚考掲載の儀御申越に御座候はゞ、四五日前もつて御申越被下度此段併せて申上候。先は右とりあへず御返事迄如斯御座候　匆々

林歌子女史より

政治家の事につきて認むる樣にとの仰せをうけましたが、其の手紙を受取りましたは十二日の夕にて、何分にも時日なく且また筆拙き身故此度は仰せに背きます。御許し下さい。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

自由廢業と凶作地の子女救護

廓清會評議員
救世軍大佐　山室軍平

（一）

娼妓の自由廢業は必要のことゝ思ふて、相變らず及ぶだけ相談相手になり、又之に力を假して居るのである。左に去大正元年十月より、大正二年十一月末に至る十四ヶ月に於ける自由廢業娼妓の統計をお目にかけることゝ致さう。言ふ迄もなく、直接救世軍と交渉のあつた分だけの話である。

救世軍で救ふた娼妓自由廢業には、自ら二種の別があつて一つは娼妓が救世軍本營に賴つて來たのと。今一つは此方から遊廓へ尋ねて行つて其志を助くる樣、たのんで來た場合である。

第一、娼妓が本營に賴り來りし數

（遊廓）	（成功）	（失敗）	（計）
吉原	三〇	一	三一
洲崎	三六	二	三八
品川	四	〇	四
新宿	一	〇	一
板橋	一	一	二
千住	二	〇	二
橫濱	五	〇	五
其他の地方	六	〇	六
總計	八五	四	八九

第二、士官が遊廓に出張したるもの

（遊廓）	（成功）	（失敗）	（計）
吉原	六	四	一〇
洲崎	一三	一	一四
品川	〇	一	一
新宿	五	一	六
橫濱	二	三	五
總計	二六	一〇	三六

卽ち總體にて取扱ふたる自由廢業の件數は百二十五件にて、平均每月九件宛を扱ふた割合になつて居る。內首尾好く廢業に成功したものは百十一人にて、出來損じたものは十四人である。此出來損じたといふのは、廢業を願ひ出でたる際、警官自ら先きに立つて所謂說諭を試み、廢業など言はず、辛抱して尚引續き賣淫に從事すべきことを勸誘せられたる結果か、又は警官に呼び出されたる樓主又は取締某に威したり、すかしたりせられたる結果、意志薄弱にして之に堪ゆること能はず、廢業の決心を飜したものである。

第一の表に見ゆる如く、娼妓が自分で救世軍本營に賴つて來た位のは、決心も幾らか堅い上に、警察へ出ての應答等に就ても多少の注意を受けて居るから、自然大概は皆成功する

即ち此場合に成功と失敗との比例は八十五人に對する唯四人にて、總體から言へば百分比例四コンマ五弱の失敗に過ぎない。二十二三人の内の一人しか、志を果さないものはない。

然るに第二の表に見ゆる如く、手紙を寄して救世軍士官の來援を求めた娼妓は、自分が未だ廓内に捕虜になつて居るのである。自由廢業の心のあることが知れたならば、有ゆる迫害、罵詈、虐待を蒙る外なき奴隷の境涯に在るものである。それ故救世軍の方でどんなに骨を折つても、餘りの苦痛と壓迫とに堪へ兼ねて、つひつひ其志を飜へすものが少なくない。即ち其成功と失敗との比例は二十六人に對する十人にて。總體から言へば丁度三割程の失敗である。十人の内三人は邪魔をされて不成功に終る勘定である。而して斯くして自由廢業に失敗した娼妓は、大概更に多分の借金を負はせて、之を他の遊廓に轉賣せらるるのは、此ういふ社會の常の事の樣に承知して居る。

（二）

救世軍の東京婦人ホームの受持として、長らく忠實を盡して居られた中校夫人指田静子氏は、不健康の爲め暫く其任を去らるゝことゝなり、大尉夫人村松きみ子氏が、之に代らるゝことゝなつた。きみ子氏は前代議士にて今は救世軍士官となり、本營附として働いて居らるゝ村松愛藏氏の夫人にて、名古屋の清流女學校を卒業せられた方である。

（三）

此度東北及び北海道の凶作に就き、復しても人買共が其あたりに入り込み、貧家の子女を誘拐して、娼妓、酌婦、又は海外醜業婦として、賣飛ばす者などある由隱れもない事實であるので。救世軍に於ては乃ち、右凶作地の子女救護運動を開始することゝなつた。其各基督教徒の間に贈られたる趣意書を左に掲げますれば、諸君が之に就て其計畫の大意を酌み取られんことを望むのである。

東北凶作地の爲に訴ふ

粛啓天恩の下に益々御清祥奉賀候、陳者此度東北に於ける凶作地の慘狀は實に言語に絶し、中には生活困難の際、姦譎なる人買等の乘ずる所となり、可憐なる年少子女を僅かの金錢に換へて人手に渡し其一生涯を誤らしめ候如きものも少からざる有樣に有之、最早一刻も棄置き難き場合に御座候、就ては我が救世軍に於ては此際左の方針に由り聊か應急の救濟運動に着手することゝ相成候

第一、老練なる士官を凶作地に出張せしめ、一面には彼等が人買等の奸言に欺かれざる樣現場に就て之を未然に救ふと共に、一面には其絶體他出の必要ある者には旅費を給し相當の保護者附添にて、上京せしむる事。

第二、此際在東京の救世軍婦人ホームを擴張し、斯くして上京し來りたる子女を一時收容して之に女中奉公の心得等を教ふる事。

第三、然る後此等の子女を東京市中にて信用すべき良家の女中奉公せしむる事。

第四、奉公したる者は爾來絶す之と聯絡を保ち、其行末を見屆くる爲に盡力する事。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

第五、又兼々經驗ある士官を上野驛に出張せしめ、無謀の上京者、又は誘拐せられて出京する者等を救護し居れるを、今後は其係士官の數を增し一層周到懇切に其務に服せしむる事。

右は其概略に候、而して此の如きは決して此度初めての計畫には無之實は去明治三十八九年度に於ける東北三縣凶作の際にも此れと同樣の事を實際に試み、丁度百五十人ほどの不幸なる子女を救濟したる經驗あり、其中には姉と弟と二人、唯金壹圓にて人買の手に渡り居りしを惡戰苦闘の結果漸く回收し得たる如き例さへありし樣の次第に候、此經驗に基きて實行致候此度の計畫が亦必ず相當の效果を齎すべきは我等の深く信じて疑はざる所に御座候、內務省にては此擧を賛して特に之を各地方長官に紹介するの勞を取られ、鐵道院に於ては又斯くして上京し來たる子女の爲に特に割引券を發行せらるゝに至りたりと雖も、然かも多人數の不幸なる子女を遺憾なく救護する爲には之に要する費用も決して容易の事に無之候、併し乍ら之は我等主に信ずるもの、此際是非共努めねばならぬ責務のある所なりと確信し、大膽に之に着手致候ものに有之願くは全國の基督に在る兄弟姉妹が何れも此人道的、信仰的運動を他人の事と見做さず、祈禱の中に記憶し、同情を以て支持し、又多少に拘らず各々義捐金を投じて之を援助せられんことを切望の至に堪へず候、何卒大正三年の劈頭に於ける諸兄姉の慈善的行爲が、此の凶作地の子女救護運動に始まり候樣只管御依賴申上候、御寄附金の宛名は東京市京橋區銀座二丁目救世軍本營（振替口座東京四四〇〇番）に願上度候、御祝福諸兄姉の上に豐かならんことを祈候　敬具　大正三年一月一日

何れ事業の進捗するに連れ、追々其成行を「鬨聲」紙上に御報告することもあらうかと思ふ。今は唯此特別運動の開始されたことをお知らせ申上げるに止めたいのである。

政治家の品行（一）

奈翁と結婚

婦人矯風會々頭　矢島楫子

我が國の政治家及び貴顯紳士と云はれる方々は兎角家庭を純良にする事に就て不熱心なのは、私の特に遺憾に存じます處でございます。日本の政治家は佛國の立法家が申しました通り「家庭は國家の苗圃であつて、家庭を造るものは婚姻である」と云ふことを知らないのでせうか。

武力を以て天下を震撼したる事那翁に過ぎたるものはありますまい。彼は歐洲を併吞し、幾百萬の生靈を殺しました。彼は英雄に相違ありませぬ。豪傑に違ひありませぬ。けれど

も人道上より觀察いたしますれば、彼は決して稱讚するに足らない者でございます。昔から人の出來ない事をするのを鬼神の如しと申します。彼はたしかに鬼でありましたらう、けれども神ではありませぬ。併し私は那翁の人格に付て一つ感心してる事があります。それは矯風事業に深い關係を有つて居ることで、卽ち彼の有名なる那翁法典編纂の際、彼は自ら參議院に臨席しました。而して申しますに、

『諸君は婚姻の何たるを知らない、諸君は商賣人や法律家として婚姻の事を議してござる、併し諸君婚姻と云ふものは精神の結合を謂ふのである』と。

これです『精神の結合』誠に善き辭ではありませんか、精神の結合でなければ、眞誠の婚姻ではありませぬ。『婚姻は精神の結合』是れ那翁が人類に遺した婚姻の金言であります。私は那翁の歐洲併呑よりも遙に那翁のこの一言を尊重するものであります。假令那翁の功業は跡なく消え失せませうともこの金言は永遠に存在するでありませう。

又辭の上には顯はれて居ませんが、是には勿論一夫一婦と云ふことが含まれて居るのは明かだと思ひます。成程二人以上の男女の間に肉體の結合は出來ませう。併し人間の性質として男女二人以上の精神の結合は出來るものではありませぬこれは私の斷言いたす所でございます。

さて私はこゝに、日本の那翁にも比すべき軍人、豪傑、及び政治家に對して望む所がございます。卽ち日本の諸英雄、諸豪傑も單に敵に勝ち、版圖を擴めたり或は唯富强を圖ると云ふ樣な事にのみ苦心せずに亦御自分及び同胞の家庭の改良に、充分努力盡瘁せられたき事であります。

旗色を鮮明にせよ

眞新婦人會　西川文子

今の政治家中には隨分ひどい方が多いやうです。藝者を買ふなどの事は素より平氣で、甚しいのは自分自ら藝者家の主人、待合の主となつて得意がつて居られる方がございますもの。そして中には、奧さんや子供は本宅において自分は始終待合で生活をして居て、本宅には歸らない、だから月末になつて、本宅の方から待合に金を取りに行くと云つたやうな變な生活をしてる人さへあると申します。それにまた、こゝは何の誰、あすこは何の某と其人々の領分があるさうでして、待合や藝者屋が政黨爭ひをして居るさうです。

政治上の談合でも待合でなければならぬやうに云ふ人もありますが、あれは自分の都合のいゝやうに理窟をつけるのでそんな事は決してないと思ひます。又交際上仕方がないとはよく人の云ふ事ですが、つまりそれは口實です。所謂「下地は好きなり御意はよし」と云ふやうなもので、何とか彼とか口實に遊びたいのです。その證據には立派な地位にのぼつた方でもチツトも其麽事のない堅い方が大分あるではありませんか

自分さへ眞個に高潔に世に立つ覺悟があるのならば、それで通れない事はないのです。そりや最初の一二度は仲間はづれで都合が惡るいやうな氣もしませうが、その主義を通せば却つて信用も增し、いくら立派だか知れませぬ。私は一人でもこんな人の增す事を希望いたします。

待合で協議をする事なども多くの方々の中では、いけない

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

と心に悟つて居る方もありませう。誰か一人堂々と反對し得る人があれば、どう考へてもこれを拒む理由はなからうと思ひます。けれども矢張それを思ひ切つて一掃するだけの勇氣がないものと見えます。

政治家の多くが何故に今日のやうな品行になるかに就てはそれぞれ理由もある事でせう。いろいろの原因もありませう政治家其人の罪に相違ありません。その品性の如何による事は素よりでございます。けれども、夫人の虚榮心や、夫人の意志の薄弱なのが原因の一となつて居るものもあらうと思ひます。例へば△△さんの如きがそれです。夫人はあれ程の才媛で、それこそ昔は手鍋さげての苦勞もなさつたし、今日まで常に夫を助けて二人で仕事をしてお出になりましたのに△△さんは、あの通りでせう。それなどが「夫が大臣にでもなつたら自分も大臣夫人と云はれるのだから――」と云ふやうな虚榮にあこがれて、その地位を得んがための夫の交際なら多少大目に見て居てもいゝと云ふ誤つた考から一歩をゆづられたのがそもそもの不覺で、遂には今日の深みに入られたのだらうと思ひます。今更それがうらめしくて今ではヤケになつて花の栽培杯やつて居らつしやるさうですが、こんな夫人は他にもいくらもあると思ます。卽ち自分の虚榮心からつひつひ夫を不品行にしてしまつてる方が大分ありませう。

モ一つは夫の品行に關して曖昧な態度を取つてるために、くみし易しと見くびられ、夫が増長して身を持ちくづしたのもありませう。私は妻として夫の不品行に對しては絶對に反對しなくてはならないと思ひます。旗色を明かにして置く必要があるのです。それが夫のためにも家のためにも最も親切なやり方で、夫が遊びはじめた時分にモウ直に、どうしても引もどさなければなりませぬ。遊ばうとする夫を見て居てとゞめないのは、子供が溺れやうとするのを救はないのと同じやうなものです。嫉妬と云はれたつてかまはない、あく迄夫を引とむる事に努力しなければなりません。日本では昔から嫉妬を婦人のつゝしむべき事として大變に戒めたものですから矢張その風がしみて居て、日本の婦人はあんまり控へ過ぎると思ひます。人から何と云はれやうが、遊びに行つてるところに迎に行つてもいゝのです、そして知合の人々にも、夫は決してそんな事をしませぬ、そんなところにやりませぬから、どうぞ皆さん悪るいところに誘はないやうにして下さいと明らかに自分等の態度を知らしておいてもいゝでせう。その位にしなければ駄目だと思ひます。

私はそんな夫人が政治家の奥さんに一人でも多く出來る事を望みます。無論政治家その人の反省も肝要ですが、婦人として婦人自身に望むところはこれでございます。

離婚と光明

明治學院長夫人　井深花子

私は政治家に知己もございませず、その方々の生活の有様も一向にぞんじませぬ。只新聞で時折見ますので、さうかしらんと思ふ位の事でございますが、兎角新聞などゝ云ふものは、いゝ方面の事は餘り書きませず、悪るい方ばかりを書き立てる者のやうです。書く方では反省させる意か知れませぬけれども、書かれた本人は却つて得意にしてるではありますまいか、又それを讀むものゝためには「あの人だつてあゝだ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

から――」と云ふ風に自分の不品行を辯護する口實となるのです。だからあんな事を載せるのもいかゞかとぞんじます。

それは兎も角、私は先達て或醫者の談を聞きましたが、その人の話によりますと『今の所謂紳士方の子供には弱いものが多い、白痴とまでは行かなくとも、どうも勉强さしても思はしくない、腦力ばかりでなく、身體も非常に弱い、幼い時で云へばよく痙攣を起すとか、何とか故障があつて、而かもそれが皆父親の不品行に原因して居る。だけども醫者の方ではまさかに「お父樣の不品行から」とも直接云へぬものだから色々と病名をつけて置いたり、又は性來お弱いのですなどゝ云つて置くが、實はそんな都合で誠に何とも申しやうがない』との事でした。かう云ふ人が政治家の中にもあるだらうと思ひます。醫者から自分の子供の眞の病原を明らさまに聞く事の出來ぬ紳士が政治家の中にも隨分あるのではありますまいか。若しさうならば實に恐るべき事でせう。

併し又幾らか喜ぶべき傾向と思はれますのは、醜業婦を夫人にする人が餘程少くなつた事です。今の樞要の地位にある方々にはいかゞはしい女を夫人として居られる方がいくらもあります。尤も昔の醜業婦は、その時代の道德思想が根底から異つて居ましたから、多少身分のある家の娘も居ましたらうし、中には氣概のある女もあつたやうで今日の醜業婦とは比較されませぬが――。

眞個今日の醜業婦は、ほんとに取り柄のない醜業婦で――時代の道德が醜業を醜業としていやしめますから、心あるものは決してなりませぬ、大抵のものは堅氣で働いて、仕やうのないものが醜業婦となるのです。従つてそんな女に戯るゝ男子も亦餘り立派だとは申されますまい。

そんな女に關係するやうな男には嫁に行かぬと云ふやうに皆の婦人が見識を有つやうになれば大變にいゝのですが、何しろ今までの女ですと、着物を着せて貰つて、食べさして貰ひさへすれば、品行などは仕方がないと云ふ風ですから、ほんとに意氣地がなさ過ぎます。けれども亦今日では婦人でも大分考へる人が出て來たやうです。所謂新らしい女と云ふ人の主唱も「男が惡るい事をすれば、自分も吉原に行く」と云ふやうな事は無論よくない事で、私共全然賛成は出來ませぬが、その他の事については大に聞く可き點がないでもなからうと思ひます。

それに就て、此節離婚の數の多くなつたのは一面喜ぶ可き傾向を示して居るものだと或人が申しましたのも實際か知れませぬ。今までは唯生活の保證さへして貰へば不品行な男にも屈從して居た女が、今日では、多少ともそんな男の下に居らぬと云ふ見識が出來て來て、それが離婚の數の增加した一原因となつてる者と見ますれば、離婚と云ふ事は喜ばしからぬ事でも、たしかにそこに一つの進歩の階段があり、一つの光明があるかと思ひます。

外交關係に及ぶ

靈南坂教會牧師夫人　小崎千代子

政治家の品行と云ふ樣なことに就きましては、さういふ方面に知合がありませんものですから一向分りませぬ。たゞ新聞や雜誌でその言行を窺ふ位のもので、お話をするだけの材

料も智識も有つて居りませぬが、日本も段々世界的になつて參りまして、以前とは餘程變つて居りますけれども、まだどうも外國の紳士と日本の紳士とは大分間隔があるやうに思ひます。

殊に私が不思議に思ひますのは、以前には牧師までなすつた方でも政治家になると、平氣で待合に出這入りをなさるやうにおなりになる事で御座います。それには又御交際上の色々の事情もございませう、何とか巧みな御辯解のお言葉もありませう。けれども其の奥樣までが却つてそれを誇り顏にしていらつしやるのですから不思議でござゐます。若しそれが私共でありましたなら、とてもじつとしては居られませぬのに、どういふお心もちでいらつしやいますか、了解することが出來ませぬ。

私は自分の主義と致しまして、家庭を清く樂しくするといふことに努めて居ります。それが私共は外に向つて演說するよりも大切な事であるとして、何から何迄臺所の隅迄も愉快に清めて行くやうにしてゐます。私はどうしても斯ういふ問題は家庭を救ふにあると信じて居ります。もう大人になりましてからは敎會に出入する樣になつても、多年の習慣といふものがあつて、中々それを蟬脫することは六ケ敷うございますから、私は搖籃部の中から惡いことに耳目を觸れさせないやう、さういふ事に興味を有たないやう、惡い外界の刺戟に打負けないやうしなければならぬと考へまして、日曜學校の敎育に力を盡して居ります。

待合入りなどをなさる紳士の奥樣を見ますと、多くは陰氣な不愉快な樣な方が多いやうですね、あれでは其良人が外に出て面白く遊ばうとなさるのも御尤な點があります。家庭は活動の源泉でありますから、愉快に努むるといふ事は大切なことでありまして、愛と涙を以て不品行を直さうとしませぬなら、夫は益々家庭の外に慰藉を求めるやうになりませう。

一國の選良ともあらう堂々たる政治家が、一度び花柳界に這入つた時の有樣を想像致しますと、情ない心持がいたします。藝妓風情に腹の中まで見透かされて、全く馬鹿にされて了ふのですもの、私共はどんなに愚な眞似をなさらうとも、又一方に其人の偉い半面を忘れませぬから、相當の尊敬を捨てゝ了ふ事が出來ませぬが、彼等にしますと、男といふものを輕蔑してしまつて、頭から馬鹿にしてかゝります、そして一方では馬鹿にされる事を喜んでゐるといふ樣な有樣で、紳士として誠に耻しい次第ではありませんか。排日問題の根本も、日本人が貞操を重んじない、男女關係の極めてふしだらな劣等な國民として卑しめる點に發足してゐると申します。

斯うなつて參りますと、政治家自身の遊ぶ遊ばぬの問題ぢやありませぬ。日本人の不貞操の思想は外交關係にまで及んでゐます。斯ういふ點に政治家達が少し覺醒して下されば何とでも自分達で議會で定むる事が出來るのですが、今日では政治期節に入つて地方から上京しては、東京の花柳界に活氣を呈せしめ、自ら陣頭に立つて社會に惡感化を與へ、一夫一婦の建白に對しても一瞥さへ與へて呉れませぬ。今日ではまだ信者の中にさへそんな事は出來ないと云つて調印を拒む者がある位。廓淸會も中々骨が折れる事であります。

京都の婦人

はつ子

○京都の女學生の袂は短かい。一尺五寸――六寸あるか知らん。御所近くの停車場で女學生の一群を見た私は一々其袂を注視した。何だか見なれぬ眼には物足りない。田舍で育つた自分の寄宿舍時代を思ひ出してなつかしみを覺えながらまた一種の淋しさを感せずには居られなかつた。彼等は虚榮の夢を見た事もあるまい、彼等は純の純なるものであらう、この點に於て京都の女學生は可愛らしい、貴い。

けれども其袂が私は氣になつた。あるならあるで一そ、乙女らしくモ少し長くしたがいゝではあるまいか、切るなら切るで、元祿か筒袖にスッパリと思ひ切つたらよささうなもの、どつちともつかぬその袂が、何だか徹底しない、煮えきらないやうで、私はあの女學生の袂は京都婦人の氣風の表現ではあるまいかと思つた。

尤もものは見やうで、長からず短からず、中庸を得たものだと云へば云へる。

○私の知つてるうちに京都の人がある。七つばかりの女の兒にいつも粗末な着物を仕立方まで昔風にして、それで平氣で遊ばしてる。つれの子供の可愛らしい友仙の被布も、無駄な事だと笑ふところは「儉約」と云ふ事以外に何もないと思つて居るらしい。たつた一人の娘によくまああんな風をさしておくと私は不思議に思つて居たが、京都に行つて見てはじめて其京都式なる事を悟り得た。

京都の婦人は服裝を張るものとばかり思つて居たのに、電車の内で見る女など皆紡績位で間に合はしてる、途で遊んでる子供が皆粗末な風をして居る。尤も立派な方々は奥殿に閉ぢこもつて容易に戸外に出られない故でもあらうが、皆、京都は質素だと云ひ、氣が張らなくて住みよいと云ふところを見ると私一人のひが目でもあるまいと思ふ。

由來東京や九州の女學生は半紙でも使ふとそのまゝ捨てゝしまうが、京都の女學生はコテをかけてまた使ふさうである。このつましさは京都婦人の美點である。

けれども或人が「京都の婦人は社交的でない、人が行くとものがいると云ふのでまた厄介者が來たと云ふやうな顔をする」と云つて居た。或はそんな風があるかもしれない。これはつましい其美點が度を越して過ぎたるは及ばざるが如くなつたのであらう。

○又其人は云つた、「京都の婦人は人に接して打解けて談笑すると云ふ事がない、相手の心をさぐるやうに、自分の心を知られぬやうに用心をして居る。だから口先は優しく親切であるが、心の中はサッパリ解からない」と實際私にも解からない。

併し私のお目にかゝつた方々は師團長夫人と云ひ市長夫人と云ひ、その他の名流夫人、何れも京都式でなかつた。とは云ふものゝその方々は何れも京都以外の土地で養成された方であつた。又「ほんとうの昔からの京都の婦人は、なか〳〵覇氣もあり又アッサリして居るさうである」と某夫人は語られた。そんならどう

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

して今日の「京都婦人」が出來てるのであらう。

京都婦人は消極的である。保守的である。社交的でない。進取的でない。だから京都に女學雜誌が出來たと云つては目を見張るものが多い。けれどもそれは婦人をせめる前に先づ其家から改築する必要がありはしまいか。京都の家は新築さるゝものこそ入口もいくらか廣いが、どこもこゝも格子を以て嚴重にかためてある、これではノラが出やうとしても出られないわけである。

○

京都の男は女の上にあぐらをかいて居る。

女の罪ぢやない、假令無意識にもせよ男が女を壓へて口をも心をも開かせないのではあるまいか。お目にかゝつた或東京出の奧樣が、旦那樣ばかりが外でお遊びになるのに、臺所にばかり引こもつて居らつしやる奧樣方はほんとにお氣の毒です」と云はれた事がある。蓋しこれ京都婦人に對する深刻なる同情である。

さはれ京都婦人は自らの縛められたる、そのいましめをハツキリと見て居るであらうか、おぼろげながら氣がついて居るであらうか、「女」なる自分に不足なささうなその顏つき、私はそれが不思議でならなかつた。

○

師團長夫人は語られた。

『京都はまだ／＼昔風が殘つて居る。獎勵したい事もありますがウツカリ出來ません、何しろ小學校の生徒の父兄等が、學校に來て、うちの娘には體操など餘りやらしてくれるなと云ふので、どうしたわけかと聞いて見ると、骨が大きくなるからと申すさうです。』

弱々しい美を以て婦人最上の理想と見て居る京都人の注文としては無理からぬ事でもあらうが、京都人はそも／＼いつ迄泰平を夢みて居る積であらう。

七條驛に下りると、既に別天地に入るやうないゝ感がする。人生の苦鬪に勞れたすべての人の子を慰撫するが如き、ゆるやかな、のんびりとした氣分が京の天地には靜かに／＼流れて居る。名所舊蹟は常に平安の世をさゝやいて居る。京都の婦人は其なつかしい自然の懷に眠つて居る。これをしも婦人のみの責任と云ひ得るであらうか。

昔縱にのみ降つた京都の雨は、この頃少し斜に降ると云ふ。時勢は遠慮なく進みつゝある。雨も風も横なぐりに吹いて降つて降りつけて、雨戸を叩き破つてしまつたならむしろ痛快だらうにとフト思つて見た事もある、そして婦人をして戸外の空氣にふれしめたならばと。けれども自らの事は自らしなくてはならぬ。京都婦人を醒すは京都婦人でなくてはならぬ。

○

京都に天主敎の尼さんで孤兒院を立てゝる人がある、三十年も前から來て居ると云ふ、そしてモウ孫も澤山出來ましたと喜んで居られながら「まだ／＼自分の慈善が足りないと思つて居ます」と云はれた。私ははづかしくてたまらなかつた。私共の同胞である、日本の孤兒を外國婦人の慈善心にゆだねて知らぬ顏してる事は京都婦人にとつてはづかしい事ではなからうか。而かも京都の婦人はこれに向つてどれだけの感謝と同情と好意とを有つて居るだらう。

新吉原遊廓に於ける昨年末日の娼妓現在數は二千五百八十人にて、其中の最高年齢者は、明治九年生れ即ち三十九歳が一人、翌十年生れ即三十八歳が二人である。病院に入院する者は常に全員の一割強あるといふ。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

出獄人保護所現況

原胤昭氏　主眼

神田區元柳原町なる同所にては該事業紀念日一月十一日　英照皇太后陛下御祭日を以つて例年の通り事業報告を公表した。今其全文を掲ぐれば即ち左の如し。

被保護總員二千四百十八人
（自明治十六年の試業　至大正二年末三十一年間）

内免囚二〇五一　浮浪者二九六　被虐待兒童七一　保護成績は良七　不良三の割合なり。

先年に倍加し尚一年間に於て五百五人の多數に達したるは主として恩赦出獄者及び微罪釋放者を檢事局より、浮浪罪拘留放免の青少年を警察署より寄托せられたるに因る。内四人は被虐待兒童（二は救護中、一は監視、一は死亡）なるにより之を控除し左に現在成績を示す。

被保護者五百一人（男四五九　女四二）大正二年中

一、罪質　強盜四　竊盜一四二　横領一二〇　無錢飲食一三　無賃乘車四一　傷害其他八　浮浪一八三

一、犯數　初犯三九五　再犯五九　三犯二九　四犯八　五犯九　六犯一

成績	男	女	計
保護寄宿中	九	一	一〇
府下居住自活又は奉公	一三一	一一	一四二
地方居住自活又は奉公	二三六	二四	二六〇
死亡	一	—	一
感化院警察署等へ轉移	二九	三	三二
現住不明	三四	二	三六
保護所逃亡	七	一	八
再犯	三	—	三
計	四五九	四二	五〇一

出獄人保護事業は、今や社會の注目に達し、一昨年の大赦御施行以降頓に其數激増し、全國に百を以て算するに至れり、軈て效果の見るべきものあるを期待す。殊に其方法に於ても、時代の趨勢に副ひ斬新なるべきは云ふを俟たず、東京に於ける檢事警官各位が銳意初期犯罪者釋放後の保護に注意を拂はるゝ如きは最も適切の措置なりと信ず。尚保護事業の一に於て之を地方關係に就て見るも、五百一人の被保護者中三十五人の外は悉く他の地方より東京に入り込み來りし者にて、未だ幾干の時日をも經ず、之より進んで大犯罪徑路に陷らんとする者なりし。又之を家庭關係に就て見るに、濫りに都會に憧憬し家庭を離れし地方青年、實に五百一人中の四百二十五人は二十五歲以下のもの内百五十一人は十六、十七、十八歲の者なりし、又之を教育關係に就て見るに、全然不就學の者は僅に三十一人に過ぎず、而して全員の學業成績は中等乃至優秀の者過半と認められたり。彼等幸に保護の手に係りしにより前表示すが如く其大半を鄉里に送還せしめたるは個人のため家庭のため將又社會のため禝益なりしと信す。前表は單に現在を示したるものなれば、未だ之を以て的確なる保護成績と認むべきものに非ざれども在鄉父兄の報ずる處によれば甚だ快とするもの多く、保護の效果を確認するに足るものあり依て以て益奮勵努力保護の勞を取らんと欲するものなり。

大正二年中の寄附金額は一千七百〇八圓六十五錢なり。

雜誌の雜誌

將來觀 百方面 將來の宗教

宗教、教育、社會、實業、政治、經濟、其他各方面に渡りて當代諸名家の將來觀は讀者諸君の喜んで聞かんことを望まるゝ處ならんと信じ、載することにした。而して此號に於ては先づ宗教の將來に對する諸家の意見を紹介する。

京都で發行する日刊新聞「中外日報」は「現在の儘では宗教はどうしても存在の意義がない、何か根本の思想を把持して、之が改造に努力しなければならぬ時機に到着して居る」との主張で「宗教改造の思潮」と題し諸家のそれに對する意見を集めて居る。素より佛教側の新聞であるから紹介されて居る意見も多くは佛教家ではあるが、中には天理教の人もあり、キリスト教の人もあり、果又神道鼓吹の熱心家もあつて、何れにしても讀者の爲めには、一個の參考資料となるであらうと思ふ。

早稻田大學教授文學士 内ヶ崎作三郎氏

例によりて氣焔萬丈である。曰く「總べて物は成長發達するもので遽かに突如として生ずるものではないこれと同じ意味で宗教は改革せらるべきもので遽かに起るべきものではない、例へば基督教は猶太教を改革したもの、新教は舊教を改革したるもの、又自由基督教は正統的基督教を改めたものである。佛教でも大乘佛教は小乘佛教から生じたもので、日本に於ても淨土宗、眞宗、日蓮宗等皆改革せられたる宗教である、依つて將來は現在ある所の宗教が改革せられ又進化したるものでなければならない」といひ、佛教を批評しては、何だか改革の精神が少ないやうだといひ、「佛教各派が其制度や教背や布教傳道等の精神に於て改革が出來ないとすれば、佛教の將來は惰力に依る事は出來るとしても教育ある國民の中堅との關係が疎遠になりはすまいか。基督教各派は西洋文明の後援を有するが故に一見社會に勢力を有すれども、思想上よりすれば歐米の基督教も改革を經なければならぬ樣な狀態にある、故に日本の基督教も先づ第一思想上の改革を要し次ぎに人物の問題に歸する。」それから「佛教は後援を惰力に持ち基督教は後援を西洋の文明に持つてゐる、併し將來は宗教心は盛んになつて宗派心は次第に消滅するであらう、そして思想と人格とに中心點が見出さるるであらう、而して又其改革せられたる或宗教の中に、永遠の眞理があり卓越したる人格が中心となり教育、布教の宜敷を得れば其宗派が中心となつて宗教は統一せらるゝかも知れぬ、併し當分は先づ群雄割據の狀態で居やう、今は種蒔きの時代である、されば各宗各派が各々特色を發揮すればよい。」といふ、最後に眞の宗教は社會の俗勢と權力者とに阿附する處の宗教に非ずして民族多數の眞の精神的慰安と滿足とを與ふるものでなくてはならないと言つて居る。

法學博士 筧克彦氏

歸一の思想は又筧博士によりて主張せられて居る但し何に歸一するかといへば日本の古神道に歸一するといふのであるからおもしろい。「眞の宗教は一切の社會現象の土臺となるものである、けれども其の形式の末に拘泥してはならぬ、形式よりも精神を重んずべきである、併し其の精神は生きた信仰、普遍的信念が土臺となつて居なければならぬ、その上に社會のあらゆる精神的物質的現象が圓滿なる調和を得るのである、即ち將來は宗教が一の大精神に歸一せらるゝのである、勿論表面に於ては相爭ふけれども其の根底は歸一である、隨つてまち〳〵の精神現象は歸一せられ安心の立場は根底の信仰が主となるのである、併し乍ら信仰丈けではなく其處に何等かの形式は生ずる將來宗教が歩調を揃へて行く上に於ては國民全體に通じて過去より將來へ動かぬものを立てなければならぬ夫れは即ち古神道である、之れを忘れるならば由々敷

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

間違ひであるが併し其範圍内に於て佛教も耶蘇教も自己の形式を通じて眞精神を發すればよい、併し呉々も注意すべきは形式に拘泥してはならぬことである、即ち日本國民としては古神道を忘れず、然も之れを窮屈なものと認めず、個々の特色を發揮して行けばよい、只耶蘇教のみは今少し圓滿にならなければなるまい

山路愛山氏

曰く「吾人が今日迄の研究考察の結果に依れば何れの方面よりするも宗教は人類に離るべからざるは既に明々白々の事たり、而して將來若し新宗教の出現を見或は之れが構成を試みんと欲せば、須く先づ左の三要素を備へざるべからず。即ち第一に將來の宗教は心理科學を一の要素とすべし、換言すれば心靈を科學的に研究する知識を要素とせざるべからざるなり。從來の宗教は多く哲學的にして科學的に心靈を研究するが如き事は少かりき、されど將來の宗教は幽靈の如きをも異常なる現象をも歸納的研究の結果之れを知るに至らん。

又從來の宗教は詩歌的或は哲學的推論的なりしも將來の宗教は想像的哲學的より科學的に進まざるを得ざるべく此科學的と云ふことが將來の宗教構成の上に於ける一の要素を爲すべきなり。

將來の宗教構成の上に於ける第二の要素は即ち社會的と云ふ事なり。宗教の働きは今日の處一人の安心決定に重きを置けるも、將來の宗教は世を救ひ人類を救ひ國家を救ふべく社會の幸福を着實に考ふる樣に進まざるべからず、されど此要素のみ多くを占領せんには其哲學的方面は衰へん。

宗教構成の第三の要素は即ち歷史的比較研究と云ふ事なり、而して之れが研究の結果は總べての宗教の本體を發見し、從來の各宗派は一の過程に過ぎず、各々其の發達の階級を異にするのみにして其の精髓は一なる事を見出すならん。之れやがて新らしき宗教の根底をなすべき要素たるなり。」

以上は先づ歸一論であるが、日蓮宗大學の島地大等氏は全く反對說である。

日蓮宗 島地大等氏

氏は先づ、近代の宗教學者が兎角歸一の思想に捉はれ過ぐるやうに思はるゝとて、それが却つて宗教の進步を澁滯ならしむるものだといひ、更に曰く「一元的の要求は人性の自然であつて、從つて歸一運動も絕えずあらはるゝであらうが、其結果は蛇尾は消失するか或は固定して成立宗教の一種となるにきまつて居る要するに宗教の將來は分裂は益盛んになつても減却することは斷じてない、そこで自分は此う曰つて見たい一元的要求を臨つて宗教の歸一を見出さうと云ふ學者連はその一面に各宗の特長と云ふものを精究して欲しい、同點を發見する事誰れにも六ケ敷事ではない異點を明にすることが特に學者を待つ事と思ふ、また所謂成立宗教に屬する人達に對しては此う曰ふて見たい例へば日本の佛教徒や基督教徒は僞つた寬容態度を去つて斷然互に戰鬪するのだ、すると互の短處も明瞭になり、互の長所も交換されて各の發達を迅速ならしむると共に廣くは人文の進運に貢獻することにもなる。」

之れも確かに一說、基督教の側では何だか、此戰鬪主義を鼓吹する人が本年に入りて特に多いやうだ。それは又追々に紹介するとして、茲に天理教の信者――といふよりか恐らく其オーソリーチーたる法學博士廣池千九郎氏の意見を紹介しやう。

法學博士 廣池千九郎氏

氏は將來の宗教は左の三條件を具備せればならぬとて、

第一、科學と並行し得る宗教でなければならぬことを擧げ、科學は人生全體の上から云へば一部分であるけれども之れと相悖るやうな宗教では不可ぬ、矛盾衝突しないで並行し得るものでなくてはならぬといひ

第二には實踐的でなければならぬ、如何に幽遠高尙な教理を具へて居つても實際の生活の上に生きて働き、實生活に對して權威あり、信ずる所必らず實行の上に現はるゝところの宗教でなければ到底宗教として將來の社會を救濟して行くことが出來ない、第三には慈悲主義であると云ふことである、慈悲とか博愛とか云ふことは今日まで宗教の內容として說かれて居るけれども本當に其の慈悲主義を行つて居るものが少い、慈悲主義で無ければならぬと云ふことは特に云ふ必要が無いやうであるけれども今日の宗教界の實情から云つて是非之を言はねばならぬと信ずる、以上の三條件を具備する宗教であるならば將來健全なる宗教として人生の要求に應じ、救濟の實を擧ぐることが出來やうと思ふ、我が信ずる天理教は完全に此の三を具備して居るとは言へないけれども最も此の理想に近い宗教であると信じて居る、斯く信ずるが故に予は一身を天理教に獻げて聊か盡して居る次第である。

要するに博士の意見では將來の宗教は正に天理教にありと信ぜらるゝであらう。

青山學院長 神學博士 高木壬太郎氏

は將來の宗教の第一條件は時代の進步と共に進步發

進すべき力を持てる宗教でなくてはならぬ、即ち人類の思想と伴ふ宗教でなければならぬ而して又改革的でなければならないと云ふ事であると。いひ、

「此點に於て私は現在日本の佛教の狀態を悲しまざるを得ない。――鎌倉幕府の時代日蓮聖人が妙經の題目を提げて「大改革を叫びしより此方一も改革は叫ばれて居ないではないか、よし叫ばれたにしても夫れが單なる空論に終つて居つて具體的に實現せられて居らぬではないか、私は異教徒ではあるが同じく宗教家と云ふ立場から切に佛教徒の覺醒を促さゞるを得ない。

尙ほ將來の宗教はユニヴァーサリズムでなくてはならぬ即ち世界的、普遍的な性質を持つて居なければならない。そして又倫理的でなければならない。從來の宗教とは道德に悖るやうなものもあつた。併し將來の宗教は其の時代の倫理思想道德觀念を導くものでなくてはならない。又將來の宗教は生の宗教であつて死の宗教でない事を要する、活社會に立つて人類を導き時代民心を指導する生ける宗教でなければならぬ。

求道主筆　文學士

近角常觀氏

氏曰く、「眞の宗教は修養の力も及ばず、冥想的、哲學的の道理に依つても如何ともすることの出來ない、又力行精進の力を以てしても救ふことの出來ない所に、宗教の眞の生命があるのであつて、修養主義哲學主義、力行主義の行詰つた所に現はるゝ所のものが眞の信仰である。今日眞の信仰に憧がれ信仰を求むる聲が高まつて來たのは宗教の眞髓と考へられて居つた修養的哲學的、乃至力行的の鼓吹の行詰つて來た證據であると云へる。眞の信仰は此等のものに縋がることが出來なくなつて、全くの丸裸になつた所に於て初めて現はるゝのである、而して將來の宗教に關する凡べての問題は此の眞の信仰の上から解決せられて行くべきものであり、亦た充分に解決せらるゝことゝ信ずる。政治の局にある者も國民教育の任に在る者も、經濟に關係して居る者も、宗教を以て國民道德の振起を圖るのがどうとか、或は教育に宗教を加味するのがどうとか云ふやうな議論も、信仰を他人の問題と眺めないで自分自身の問題として考へ、眞の信仰を獲得するやうにしたい。

然るに今の處では自己に信仰が確立してゐないから國家として宗教を取扱ふ上に於ても宗教の制度を制定する上に於ても徹底しないのである。何にもせよ眞の信仰を確立することが先決問題である。而して其の信仰は先きに云ふ如く修養的の安心でもなく哲學的の理解でもなく、又た律法的、力行的の實道具でもなくて此等のものゝ手の屆かない、即ち此等のものに依つて救はるゝことの出來ない所の人生究竟のものであつて、此の眞の信仰を有する宗教こそ將來の社會人心を支配して行く所の宗教であると信ずる。

新佛教

高島米峰氏

明日も將來、百年の後も將來であるが既に過去に滅びた宗教があるからには將來矢張り滅びる宗教もあると云ふ事は豫想する事が出來る。佛教は釋尊の立てたもので釋迦は國王の子であつた、そして三國傳來の歷史を見ると悉く國王と國王との間又は君主と君主との間に傳へられて居る、基督教は其教祖が下層の出身である丈けに常に下層の部分から傳道せられて居る、彼れが日本に傳來するにも先づ之に利を啗はして傳道の手段とした。儒教は果して宗教と云ひ得るや否やは疑問であるが、之れはよく中等階級に普及せられ常に中等階級を支配して來た、孔子は偶々之れを唱へて上流に傳道しやうとして失敗したが、我國の如きは所謂學者と稱せらるゝ者は勿論一般に中流の階級に儒教が勢力を持つて居た。

國王より國王に傳へられた佛教は漸く上流に信を失ふと共に、衰へ出した、即ち華嚴、天台、眞言の如きそれである、偶々親鸞の如きは下層に勢力を得て隆盛を見るに至つたが其の眞宗も亦貴族化せるを見れば將來の命數も略々窺ひ知れる、斯くの如くにし貴族佛法は滅亡するであらう、更に平民階級に勢力を有せる基督教は專ら上流に傳道せんとし、名を得、地位を得んとして日も之れ足らず、戀々の情止み難く三教會同を讚嘆し國家に阿附し政權に媚びつゝあるは、やがて之れ下層に勢力を有せし特色を失ひ、遂に衰亡に沈むの道程と見ることが出來やう、唯儒教の思想は何處迄も中流階級の中堅となつて、根底の幾分かを占め健實に其城廓を保ち得るであらう。而して佛教も基督教も等しく貴族化するに依つて墮落し衰亡するであらう。

文學博士

村上專精氏

宗教が今日の狀態になつてゐやうとは福澤翁でも大隈伯等でも思つて居らなかつたであらう、明治維新の當時は大抵な人は佛教が今日殘つてゐやうとは思はなかつたのである、どうも宗教の將來ばかりは殊に豫想が出來ないものである、德川幕府の末期から明治維新へかけての佛教の沈衰と云ふものは非常なもので、若い人達では迚ても想像が出來なからうと思ふ、明治維新は士族の手に依つて成つたもので、德川の末葉から僧侶の値打が下落して武士に向つては頭が上からなかつたのである、今日から考へて見れば德川幕府が倒れ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

たと云ふことはズッと其の以前から衰頽の兆があつたことが分かるけれども、其の當時德川が倒れると云ふやうなことは夢想もしなかつたことで、其の德川を倒して明治維新の基を闢いたのが武士であるから、僧侶の眼には士族程偉らいものはないと思ひ、一層怖れを感じた、然るに其の維新の際に働いた人々の頭は遠く神道では平田篤胤、儒敎では徂徠以來皷吹せられた排佛の思想で作られて居るから、復古と云ふ旗印と同時に佛敎排斥が熾んになり、所謂廢佛毀釋の時代を演出したのである、各宗の法王門跡と云ふ位地の人が神官の裝束をして柏手を打つて神前に魚を供へ、三ヶ條を布衍するの外は一切敎義を說くことを禁ぜられ、境內地は上地を命ぜらるゝと云ふ有樣で、迚ても佛敎が今日傳はつて居やうとは思はれなかつた、それも其筈で其の當時の政府の方針は宗敎を撲滅する考へであつたので敎部省の設けられたのは宗敎を保護しやうとか指導しやうとか云ふ考へから出來たのでなく宗敎撲滅の手段として出來たのである、だから各宗本山の權威は無くなり部下の不統一を來たし、夫れは〳〵慘憺たるものであつた、そこへ明治七年島地默雷氏が洋行から歸朝して外國に於て宗敎を尊重しつゝある事情を紹介し宗派が敎部省から分離すべきことを盛んに唱道し、分離論、分離不可論が起り、遂に分離論が勝を占めて自由に布敎することになつたが此際に於ける島地氏の功は永く沒することが出來ない、恁う云ふ次第で初め宗敎撲滅の方針であつたが、段々外國に於ける宗敎の事情が分つて來るに從ひ宗敎撲滅する譯に行かぬ、宗敎の存在を認めればならぬと云ふ風に爲政者が考へて來ることは來たが、明治二十年頃迄は熾んに泰西の文明が滔々と入り込んで來た時代であるから西洋崇拜の思想が旺盛で、同じ宗教などとるならば基督敎の方がよい、基督敎は西洋に行はるゝ宗敎であるから其の方がよいと云ふ考へが爲政者の頭にもあつたゞらうし社會の者も左樣に考へて居つたから、基督敎の傳道に最も好機會を與へ、彼處にも敎會が出來、此處にも會堂が建てられると云ふ風で、日本全體が皆な基督敎になつて仕舞ふであらうと思はれた程である、基督敎の傳道者も多分そう思つたであらう、所が一方に於いて世間は明治二十年頃から西洋崇拜の反動として國粹保存と云ふことが日本新聞や雜誌「日本人」に依りて呼び出され、西洋ばかり良い譯ではない、日本にも斯う云ふ結構なものがあると云ふ事が唱へられ、又た一面佛敎の方では明治十四年東京の帝國大學に佛敎の講座が開かれ、時の總長加藤弘之氏等の發意で、原坦山氏が起信論を大學に講じ、明治十五年から大谷派の吉谷覺壽氏が講師として大學へ佛敎の講義を始め、明治十九年から二十年へかけて井上圓了氏の「佛敎活論」等の著述が出たことに依りて佛敎々理の哲學的價値を社會に紹介したことは非常なもので佛敎を學んで居る者も學んで居ない者でも井上氏の新編活論を爭ふて讀み、佛敎には恁う云ふ高尙な哲理があるかと感嘆し、讀書界の注意を喚起した、其の當時の井上氏の功に對しては曩きの島地默雷氏と同じく明治の佛敎界は大に感謝せねばならぬ、哲學館は此の力に依りて出來たのである、外部の國粹保存の叫びと佛敎內に於いて佛敎を哲學の立場から社會に紹介すると云ふことに依り佛敎が世人の注意を惹き、沈衰の極にあつた佛敎が明治二十年以來は學問的に研究せられ、世人の佛敎に對する態度が餘程變つて來た、所が明治三十年頃から佛敎內に於いても佛敎を求むる者に於ても學問の對象としてゞはなく、信仰的に觀るやうになり、信仰的機運が高まつて來た、之れは恁うなるのが自然であるが、其以前に佛敎の價値を學問の上哲學の上から紹介したと云ふことも當時としては止むを得ない自然の道行であつたのである。

斯くて現今となり政府が三敎會同をやつたり、或は宗敎家の招待會をやるやうになり、國民の宗敎に對する態度も餘程變つて來た、佛敎が維新の際日本の地を拂ふて仕舞ふかと思つたのは今から考へると杞憂に終つて今日あることを得た、恁う云ふ過去の經驗から考へて見ると宗敎の將來と云ふものはトンと豫想することが出來ない、此の先き日本の宗敎がどうなつて行くかと云ふことは右言ふ通りで何んとも云へないが只一つ感ずるのは平安朝の歷史を見ても鎌倉時代の歷史を見ても政治上に大變動のあつた時代には必らず宗敎界にも大改革が行はれて居るにも拘はらず、明治維新にあれ程の大改革があつたのに宗敎の上に大改革が未だ思はれないのはどう云ふものであらうかと思ふ、寺院や僧侶は維新以前の儘を行つて居る、之れは果して完全な狀態であらうか不健全な狀況であらうか注意すべきことであらうと思ふ。

◎家人日常の心得　三十則

羽仁もと子

一

明日の服裝（朝外出するもの携帶品とも）は、必ず今夜整理し用意して枕元に置くこと。

二

めい〳〵に注意して、定めの食事時間に食卓につくこと。

萬一お膳だて等の出來てゐない時、または用意すべき醬油つぎ、菜箸等のない時は、まづ來合はせたもの心づいたものが、快く責任者を助けてやること。手

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

擔ひを受けた責任者は、心より謝意を表すべきこと。

相互に充分に責任を負ふことは、何よりも大切な各々の心掛である。しかも他の已むを得ずして責任を果し得なかつた場合に、助けずして冷かに傍觀するか、或はまた責め辱かしむるが如き態度あることは、圓滿なるべき家族の理想に反するものである。

三

十歳以上の子供は、めい〳〵にお辨當を詰めること（おかずは食卓の中央に用意して置く）

四

自分の用ゐた食器は、五歳以下の幼兒の外、めいめいに流しに運び、且つ少しでも殘物等あれば、必ず始末して置くこと。（注意して出來るだけ、お椀や皿に殘りもの丶ないやうにすべきは勿論のことなれど）

五

最後に食事を終へたものは、お飯櫃をかたづけ、湯沸に水をさし火鉢にかけて置く。

この時火を程よくして、いけることを忘れてはならぬこと。

六

洋服に着換へる子供は、ぬぎたる和服を疊みて、めい〳〵の亂れ籠に入れ、風呂敷を掩ひて、めい〳〵の箪笥の上に置く。

天氣の日には、肌着は必ず日にさらして出る。

七

女中は朝の仕事の濟み次第、その旨を申出で、その日の仕事の指圖をうけること。

聞いて置くべき何かのことを、必ず忘れなくこの時に於てすること。後で度々主婦を煩はさぬために。

八

時間の區切を重んずること。

食事等を定めの時間までに、必ず用意すべきは固より、晝の支度にかゝる時間、お茶の用意にかゝる時、夕方の掃除、料理にかゝる時間は云ふまでもなく、朝のかたづけ、晝のかたづけ、晩のかたづけを濟ます時間なども、必ず正しく守られねばならぬ。十一時が晝の支度に立つ時なのに、いま少しだからと思つては讀物をやめなかつたり、洗濯物を干すのに暇をとつたりして、五分後れ十分後れすることが何よりも禁物です（立話にツイ大切の時を後らすことなどは云ふまでもないこと）。かういふ五分十分の違ひから、家庭の時間は總くづれになつて仕舞ふからである。時間の區切々々といふことを、皆よくハッキリと頭に入れて欲しいと思ふ。

九

合間仕事を持つてゐること。

時間の區切々々を嚴重に守るためには、皆が合間仕事を持つてゐなければならない。合間仕事といふのは、仕事の合間々々に、氣輕に取つたり置いたりすることの出來る、小さい仕事です。例へば、靴下つぎ、足袋つぎ、雜巾こしらへ、編物、時としてはお手だまや毬つきなどのやうな美しいものもあらう。かういふものを、めい〳〵に渡されて持つてゐること。

洗濯や張物をしたにしても、いつでもキッチリお晝御飯にかかる筈の十一時までに濟むとは限らない。寧ろさうキッチリと行かないことばかりなのである。洗濯が十時中に濟めば、十一時に晝の支度にかゝるまでの間、合間仕事をしなければならない。また夕方など[illegible]掃除や膳立をするものは、どうしても料理をするものより早く濟むことになる。それから食事までの間を、ツイうか〳〵と怠けて暮らすのはよくないことです。一寸だけれども矢張時間の無駄にならないやうに、合間仕事を持ち出されねばならぬ。

自分々々の定まつた責任をよく果し、そして合間仕事のよく出來るものは何よりも勤勉の證據です。合間仕事の成績は、めい〳〵の勤勉を計る尺度であると云ふことも出來る。

十

仕事の區切々々を、奇麗にハッキリとすること。

時間の區切々々をキチンキチンとすることの外に、いま一つ大事なことは、仕事の區切々々をハッキリときまりよくすることである。

例へば朝起きて顔を洗ふ。顔を洗ふといふ一つの仕事を始めたならば、使つた後の楊枝も石鹸箱も金盥も充分奇麗にして、置くべき所に正しくおさめ、手拭はまたよくひろげて掛ける所に掛けなければならぬ。さうして次の仕事に移らなければならない。

お汁たてといふ一つの仕事にかゝつたならば、お味噌をすつて仕舞ふと同時に、擂鉢などを奇麗にして、それ〴〵の置場におさめ、そのお汁たてといふ仕事にキッパリ區切をつけて置いて、それからお汁の實を切るといふ、次の仕事にかゝるのである。

御飯の後をかたづけるにしても、一人の手でするならば、まづ食事部屋から食器類を臺所に運び、御飯臺をもよく拭いてかたづけて、食事部屋が全く奇麗になつた所で、臺所に出してある洗物にかゝるやうに。

お客樣を送り出したなら、すぐと座敷の茶器や火鉢

なかたづけて、お客についての用事に、キツパリと區切をつけて、それから次の仕事にかゝるのである。

仕事の區切々々をキツパリするといふことは、是非ともよく〳〵頭に入れて、日々それ〴〵の場合に當つて、充分に實行しなければならないことである。朝顔を洗つた手拭が、落ちさうにそこにかけてある、口をゆすいだコップは仕舞ひ忘れてある。お味噌をすつた擂鉢をしまはずに爼を出すといふ風に、一つ〳〵の仕事に鮮かな區切をつけない仕事の仕方は、家中を亂雜にするものなのである。

お客は送り出したけれども、お客に出したお茶碗はその儘座敷に置いてある。即ちお客に就ての仕事に區切をつけない。御飯のあとかたづけをするのに、食事部屋の皿小鉢を臺所に運んで、さうしてそれを洗ひにかゝる。御飯臺は、臺所での洗物が濟むまで、汚れたまゝで据えてある。即ち食事部屋をかたづけるといふ仕事に、區切をつけてないで、さうして臺所の方の仕事をしてゐる。かういふ切り目の曖昧な仕事をしてゐると、どの部屋も〳〵始終散らかつてゐることになる。

朝チヤンと掃除の出來た部屋で誰かゞ新聞を見る。さうして片附けずに行つて仕舞ふ。子供がおもちやを持つて遊ぶ。また片附けずに庭に出て仕舞ふ。さういふことで、折角部屋を掃除しても、奇麗なのはその時だけで、直きに亂れて仕舞ふのである。さうしてまた次の掃除の時に非常に時がかゝる。のみならず澤山に散らけてあるものを一時に片附けると、どうしても、一つ〳〵あちらの部屋へ、此方の部屋へと持つて行つて、すべてのものをそれ〴〵に仕舞ふべき所に仕舞ふといふことは出來にくいもので、ツイ手近にあれもこれもと重ねて置くやうになり、失せものや探しものを多くするもとになる。

新聞を取り出したなら、仕舞ふのは區切です。大人も子供もめい〳〵に、自分のちよい〳〵することに、必ず區切をつけては、外のとをするやうにしさへすれば、家内はいつも掃除をした時のまゝに奇麗で、人手もかゝらず、失せものもなく、探しものゝ面倒もない生活が出來るのである。めい〳〵に氣をつけて、是非々々實行しなければならない。

十一

忘れもの棚。

誰も〳〵仕事の區切々々をキチンとすることの出來るやうになるために、忘れもの棚といふものを、仕事部屋に行く廊下の所につくつて置きます。鋏や物さしが、飛んでもない所に置き放されてあつたり、子供のお辨當箱でも雜記帳でも、外套でも、すべてあるべき筈でない所に置いてあつたものは、誰でも見當つた人が、その上に載せて置くといふことにして、夕方の掃除の前に、その日の忘れものゝかゝりに當つたものが、それ〴〵に忘れた本人に渡して始末させるやうにします。

但しこれも皆が助け合つて、仕事をキチンとする習慣を養ふためなのだから、お互に眞實な心を以てして決して皮肉な思ひを持ち合つてはならない。

十二

當座棚。

忘れもの棚の上の棚は、當座のものを載せる棚である。その上に別に名刺入箱と、一冊の手帳が用意してある。留守においでになつた方の名刺を入れるためです。手帳には名刺のなかつた方のお名前や、その他を書く。

留守中によそから届けて來たものや、頂いたもの、または買物をして歸つた時に、早速始末の出來なかつた時など、皆そこに載せて置く。この棚の上に載せたものを、長くその儘置いてはならないのは、勿論のことである。

十三

掃除を受持つてゐる家人は、必ずめい〳〵にはたきと雜巾を持つてゐること。使つた雜巾は必ず充分に洗つて、一定の場所に乾かし置くこと。

十四

臺所に働くものは、めい〳〵に自分の上草履をきめて置くこと。上草履のなくなつた時は、そのことを申し出て新しいものを受取ること。雜巾も同じこと。

十五

ものを破した時は、必ず直にその事を申し出し、補充に就ての指圖をうけること。自然に減つたり破れかけなどして、充分役に立てないものゝ出來た時にも成るべく早く申し出し、修繕または補充のことを取運ぶこと。

十六

一度御飯をうつした飯櫃は、その日のうちに必ず洗ふこと。

十七

女中の入浴は、今日は誰が先、誰が次、あすは誰が先といふやうに順番をきめて置く。終りに入浴したものは、丁寧に火の始末をし、湯をもぬき、始末の出來たことを申し出て、見まはりをうけること。

十八

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

最初に入浴する番に當つた女中は、瓦斯栓のしまりに注意する。メートルの所まで皆充分に閉まつてゐるかを見なければならない。且つ火鉢の火を一定の手順通りに始末し、その由を申し出て見廻りをうけること。

十九

戸締り番のものは、戸締に注意し、その旨を申し出て、見廻りを受けること。

二十

裁縫がかりと取次がかり。

裁縫がかりと取次がかりは日々の一定の役目の外に、二人の女中が一週間交代に勤めること。裁縫がかりは、專心裁縫に精を出し、取次がかりは、張物、ほどきもの、つぎものなどの細々した用事をしながら、來客及び電話の取次をなし、且つ臨時用にあたること。

二十一

女中の髮ゆひと身じまひ。

御飯たきは毎日洗濯の濟んだ後で、他の女中は、朝の役目の濟んだ後で、交代にすること。身じまひの濟んだ時には、そのことを申し出ること。

二十二

女中は必ず裁縫部屋に居るべきこと。女中部屋は唯髮をゆふ時、寢る時のためにあることを忘れてはならない。

二十三

女中の自修時間は、夜の八時半より十時まで、精出してめい／＼の着物を縫ひ、讀み書きを勵むこと。

渡してある讀物を、毎晩三十分丈け、今夜は誰の番、あすは誰の番と代る／＼音讀して、お互に樂しみまた益を得るやうにすること。

二十四

日々その日の裁縫がかりに渡してある小買物の餘りは、買物手帳と共に、夜の仕事の終へた時に主婦に返すこと。

二十五

夜の仕事のおはつた時には、そのことを申し出ること。

二十六

寢る時には、挨拶をすること。

二十七

朝はめざましの聲に應じて、女中は皆同時に起き出ること。

二十八

朝の挨拶は、食事部屋に、家族の揃つた時にすること。

二十九

內玄關と、臺所の上り口に、キチンと足拭雜巾を置くこと。これは御飯たきのかゝり。特別に汚れた足を拭いたものは、早速その雜巾を洗つてかけ、御飯たきに賴んで代りを出して貰ふこと。

三十

冬季のお椀あらひ水（熱湯で消毒するものは別）、拭き掃除水は、湯をうめて、冷めたくない程にする。うめ湯位はお茶用の湯釜にいつでもある。さういふ仕事をする度に、瓦斯でチョイ／＼湯を沸して、すべて熱湯ばかりでするといふのは、時にも費用にも手數にも非常な不經濟である。無益な浪費をしないといふ心掛けは、めい／＼の身を立てるもとになるのだから、必ず注意しなければならない。

* * * * * *

この箇條書きは、皆に必ず一週間に一度は讀んで貰つて、啻に自分の仕事をよくして貰ふばかりでなく、この家中の整理がどういふ工合に組み立てられてあり、誰がまたどういふ風に働くのだなといふことなども、互に呑み込んで、相互に助け合ひ、殊にめい／＼の領分は、充分に責任を重んじて、獨立で世話なく果し終せて欲しいと思ひます。

箸の上げ下しに世話を燒かれるのは、世話を燒かれる方にとつては、どんなに不愉快なことであらう。世話を燒かねばならぬ方にとつても、またこの上なき嫌な仕事である。不愉快なこと、嫌なことであるばかりでなく、私たちはお互に世話を燒いたり、燒かれたり、朝から晩までゴタ／＼して、とう／＼一生涯落ちついて、めい／＼に身になるやうな仕事をして見ることが出來なくなる。

朝起きたら、私は私の用事にかゝる、誰のことも心配しないで。皆はまためい／＼に、誰にも世話を燒かれないで、立派に獨立して仕事をして欲しいのです。

本當に責任をもつて獨立して働いてゐる中に、これはどうしたらよいだらう、あれはかうする方がよくはないかと氣のついたことは、また別に時をきめ日をきめて、お互に樂しく研究をして見たいと思ふ。

◎今年から始めたいこと止めたいこと

跡見花蹊

親類と仲よくする

新らしい年を迎へます毎

に、いろいろ改めたいと思ふことはございますが、毎年毎年同じやうなことを考へるばかりで、それを實行せずにしまふことがよくあります。次に申しますことも、以前からさう思つてゐることでございますが、今年からは是非ともさういたしたいと存じます。

それは、親類の人人と親しくするといふことです。今までも、別に疎遠にしてゐるといふわけではありませんが、今までより一層親しくしたいといふことです。去年までは年に二度か三度しか行かなかつたところへも、もつと度度行くやうにし、此方へも時時來て貰ふやうにしたいと思ひます。

土産を持つて行く習慣　今までの日本の習慣として、親類一族は、身分の善い惡いに拘はらず、平等に交際してゆかなければなりません。身内で困る人があれば、できるだけ世話をするとか、病氣で休んでゐる人があつたら、度度見舞つてやるとかいふことは、自分の力の及ぶだけいたしたいと思ひます。

……日本の婦人の交際には惡い癖があつて、親類へ無沙汰見舞にゆく時にも、必ずお土産を持つてゆかなければならないやうになつてをります。

「今日は時間の都合がよいから、何何さんのところへ行つて來よう。」

と思ひましても、

「お土産にするものを買はなければならない、何がよからう。」

などと考へてゐるうちに、つひ面倒くさくなつて、

「この次ぎにしよう。」

といふことになります。

親類の交際に手數が掛る　また外を歩いてゐて、ふと知合の方のお宅の前を通つた時に、チヨツとお寄りしようかと思つても、

「お土産がないから、また出直して來よう。」

と、そのまま素通りに過ぎることがあります。こんな風で、知らず識らずの間に親類との仲が遠くなるのは、誠に殘念なことだと思ひます。

訪問する方では、お土産のことで餘計な苦勞をいたしますが、訪問される方でも、忙がしい時に來られると迷惑をいたします。御飯時分にでも來られますと、親類同士のことですから、何はなくとも御飯を出さなければなりません。

「珍らしいお客さんだから御馳走をしませう。」

といふやうなことで、非常に手數が掛ります。

お八つ時分に訪問する　お互につまらぬことで面倒をして、それがために自然往來が遠遠しくなるやうではいけませんから、今年からはお土産なしでも構はず、度度親類まはりをしたいと考へてをります。

訪問をする時間も、先方に迷惑をかけないやうに、午後の二時か三時頃、皆集まつてお茶でも頂く時に行つて、お客さんも一緒にお八つを頂くやうにしましたら、お互に樂しくお話をして、先方にも迷惑をかけずに濟むだらうと思ひます。

そのかはり何か上げたいと思ふものがあつたら、自分で持つてゆかないでも、使ひに持たせてやつてもいいでせう。かういふ風にすれば、手輕に、しかも親密に交際することができようと思ひます。

ますます質素を奬勵する　私の學校は「昔風」だといふ一般の評でございます。なるほど私は昔風に、習字、裁縫、割烹などに重きをおいて、この方をやかましく申してをりますが、一方には時代の進歩に伴なつて、新らしいことを教へてをります。英語などは、二十年も前から西洋人を頼んでやつてをります。

かうして學科は他の女學校と遜色ないやうに心掛けてをりますが、生徒の服裝や裝飾品などは、質素に質素にと申してをります。これは、今までも隨分やかましく申しましたが、年年世の中が贅澤になるに從つて、この方を一層やかましくする考で、殊に今年からは嚴重に「質素主義」を勵行したいと考へてをります。

樂しい人間になりたい　私は非常に運動好きでございます。昨年までは、毎朝家の近所を散歩してをりましたが、昨年の七月から或る人に勸められて靜坐法を始めてみました。チヨツとやつて見ますと、大分身體の工合が宜しいので、今年からは他の運動をやめて、益々靜坐法を實行したいと考へてをります。

親しい家のものなどに對して、

「もう少し此方のいふことを聽いてくれればいいだらうに。」とか、

「あんなことをいつてイヤな人だ。」

とか思ふことがよくございます。私は日頃佛敎を信じてをりますので、お說敎のことなど思ひ出して、

「そんな不平を起すものでない。」

と思ひながら、つひ不平がましいことを考へることがあります。こんなことも新らしい年を迎へると共に矯正して、樂しい人間になりたいと思ひます。

◎休日に子供と遊ぶ

巖谷小波

世の中がだんだん忙がしくなるに從つて、一家の主人が家庭にゐて、子供をはじめ家内の人人と一緒に樂しく食事するとか、一室に集まつて子供のために面白

い話でもして樂しむとかいふ場合が、だんだん少なくなります。

非常に忙がしい人になりますと、朝外へ出て、夜晩る時分でなければ家に歸らないといふやうな人もあります。かういふ人は、奥さんとゆつくり話をすることもできなければ、子供と遊ぶことなどは勿論できません。かういふ家庭に生れた子供は、父の暖かい愛情に接することがないといつてもよいくらゐです。これでは、何のために家庭を持つてゐるのか、何のために子供を育ててゐるのか、何のために働いてゐるのか、一向わかりません。

一月か一週に一日でも　可愛い子供の顏も見ず、年中他人のおつきあひに忙がしい生活をしなければならないやうでは、家庭の人としての樂しみを味ふこともできません。

こんなことでは子供も可哀さうですし、家庭の人人も樂しみがありません。實は、私もかやうに忙がしいので、ゆつくり子供たちと遊ぶことはありません。これではお互に面白くありませんから、一週間に一度でも、一ケ月に一度でもよいから、主人も子供も一緒になつて遊ぶ日を作りたいと思ひます。

子供との約束は破り難い　これは私ばかりでなく、皆さんもさういふ希望がおありになることだらうと思ひます。このことは、よほど以前から考へてをりましたが、今まで適當な日がないために、實行しかねてをりました。

一體日本人は、「子供のため」といふことに重きをおかないやうに思はれます。日曜日には子供たちが學校が休みであるから、この日に子供たちと遊べばよいのですが、それは極めて稀です。子供の方で、

「今度の日曜には何處かへゆきませう。」

といふと、その場では、

「ヨシヨシ、連れて行つてやらう。」

と承知してゐても、グズグズしてゐるうちに自分の方の友達が遊びに來たり、人に誘はれたりすると、子供と約束したことはすつかり忘れてしまつて、自分の方のことばかりします。また子供との約束を忘れないまでも、

「今日はお客さんがあるから、この次ぎにしよう。」

などといつて、子供との約束は直ぐ破約にしてしまふ人がよくあります。

來客を斷つて子供と遊ぶ　こんなことでは、たとひ暇があつても、子供と遊ぶことはできません。

大人同士で約束したことを自分から破ると、相手にイヤな顏をされますが、子供ですと、容易に破約することができますから、自然子供との約束は破られるやうになるのです。かういふ風では、子供には何時も嘘ばかりいふてゐなければなりません。それですから、

「何日は、主人に用事の來客はお斷り、此方からも伺ひません。」

といふ規則を作つて、この日一日は子供のために費すやうにしたいものだと思ひます。

家族を連れて別莊ゆき　近頃は休日に別莊へゆくといふ事が流行しますが、これも、一面から申しますと必要なことです。平生自分といふものを忘れて、ただ忙がしく働いてゐる人にとつては、たまには空氣のよい閑靜なところで、自分の思ふままに暮らすといふことは、非常によいことであらうと思ひます。

その時に、平生話をする機會もない家族の人人や子供たちを連れて行つて、面白く樂しく遊ぶことは、是非勵行したいと思ひます。

初對面の人を紹介する　私は、何の考もなしに、人にいはれる通りに、見ず識らずの人を紹介する風があります。またあまりよくも知らぬ書生を家においたりしますが、その結果はあまりよくありません。今年からは、これを止めたいと思つてをります。知人からの紹介狀を持つて來た人が誰かに紹介してくれといふと、初めて會つた人なのに直ぐに紹介狀をやることがあります。これは誠に無責任な話です。そのために過失をしたこともないではありません。書生をおいてもその通りです。書生などは、世話をする人があると獨立心がなくなつていけませんから、丈夫で働ける人は、なるべく自分で働く樣にしてやらうと思ひます。

會費の納入に就て

會費はすべて前金に御拂込相成候樣願上置候へども、滯納の向少からず、差支候につき、此際至急左の振替貯金口座により御拂込相成度候。

振替東京二一七〇七二番

廓清會本部

women and young and old, should stand against the old institution which deprives women of their sacred rights and prostrates them to a slavish life. Here is a splendid field of work where the Purity Society shall carry on its work with vigor and enthusiasm. Here is a good opportunity for the Government authorities to test their power of justice which they profess to exercise.

Are they dead or are they asleep that they do not respond to these calls of justice? Or is their conscience made dull that they do not listen to these cries of truth and humanity? Both the Government and people shall come forward for the speedy and satisfactory solution of this great and important question.

We heartilly appreciate the powerful utterances made by Count Okuma, and hope that the public will give its strong support with our movement. It is not the time we hesitate and think; it is the time we work and fight. We must work so that the people will be awakened to their terrible blunder. We believe with W. Lloyd Garrison, the leading abolitionist of negro slavery, that "When the necessary revolution in the mind of people is completed, that in the institutions of the country will follow as the day follows the night."

With the return of the New Year men must born anew. It is not the newness of the "new women" in Japan that we demand. We demand the moral and spiritual resurrection of men which makes them feel their great responsiblity for this movement.

Greeting another hopeful year of 1914 we ever more keenly realize our great mission, for the fulfilment of which we ask for the strenuous cooperation of the public.

This year we promise our greater activities. We will not only hold public meetings, but will also invite and confer with the Government officials and policemen with a view to promoting public morality and abolishing the licensed system. We also intend to meet with the educationists in the city and to devise means so as to enhance "purity" ideas among the young men and women. We are planning to write to the Christian Churches and other religious organizations throughout the Empire to enlist their sympathetic cooperation.

As the first step toward realizing our maintenance we propose to present a bill in the coming session of the Imperial Diet through Mr. Saburo Shimada, M. P., demanding the abolition of the licensed system.

Last year we monthly distributed 650 free copies of the "Purity" among the Government officials and policemen as well as all those intersted in the purity movement. This year we will distribute the magazine among a greater number of people, including, of course, the Government officials and the officers of law.

In June next we shall celebrate the third anniversary of the commencement of our work, and in the meantime we shall announce the plans of commemorating the event. We shall also celebrate the 20th anniversary of the abolition of the licensed system in Gumma Prefecture which, we expect, will be equally observed with success.

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. IV. January, 1914 No. 1.

CONTENTS

Purity Notes
By Mr. Seisuke Masutomi
Loss of National Consciousness
By Count Okuma
On Social Banquet Reform
By Baron Hiroyuki Kato
Greeting the Year 1914
By Mr. Shimada, M. P.; Prof. Abe; Prof. Uchigasaki; Mr. Kannosuke Nishimura; Mr. Yajuro Yamada; and Mr. Seisuke Masutomi
Social Encroachment of the Geisha and the Woman of a Home
By Mrs. Hatoyama
Conduct of Politicians
By Mrs. Yajima; Mrs. Fumi Nishikawa; Mrs. Chiyo Kozaki; Mrs. Hana Ibuka.
Retirement from the Immoral Calling and the Tohoku Famine
By Col. Yamamuro
How to pass the Crisis of Youth
By Mr. Osamu Miyata
Extracts from the Japanese Periodicals
The Women of Kyoto as I saw
By Mrs. Hatsu Nagayasu
The Tokyo Home for Ex-Convicts
By Editor
English Department

COUNT OKUMA ON THE SOCIAL EVIL

Any nation that maltreats women will never prosper. History proves the fact. A nation which persecuted women declined, and would never rise again until it was awakened to the wrong it had done and amended it at its earliest opportunity.

Christ came out and pointed out to the world that it had held erroneous views as to the fair sex. Women are not mean or humble just as much as men are not. If women are just as respectable as their opposite sex why are they not rightly treated? Why are they only given an unfair treatment? It is the high time that the women should rise and fight for their liberty—liberty that inspires them with the strong sense of their mission.

Just think thousands of women in Tokyo alone are leading the life of shame! Are they to perish forever without being rescued? Heaven forbids it in this era of "Great Righteousness". Religion and morality oppose the White Slave Traffic, but their influence is not sufficiently felt. Law gives equal rights to women and prohibits their immoral trade. Now is the time the people, men and

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY